関西大学『社会学部紀要』第25巻第2号，1993，pp. 43-94　　ISSN 0287-6817

米国ケーブルテレビの地域性

——Palos Verdes での実態調査（概要）——

多　喜　弘　次

Function of Cable TV in U.S. Community: Case Study in Palos Verdes (General Report)

Hirotsugu TAKI

Abstract

Both the central government and the local governments of Japan have been pressing for a rapid diffusion of cable TV since the middle of 1980s. Their common aim is to enhance local communities by cable communications.

This field survey was conducted in Palos Verdes, Los Angeles County, California, to investigate how cable TV is functioning as a community medium in the US.

The results were mixed. The public institutions, such as the local governments, schools and libraries, were using cable systems to provide various public information including the cablecast from the municipal assembly. The cable operator had positive attitudes toward public service like PEG access channels. However, the residents' motives for subscribing to cable centered on solutions to insufficient receiving of TV waves and diversification of TV programs. Local access channels were far less popular than conventional TV.

The major conclusions of the study was that cable TV was strengthening the characteristics of TV broadcasts and had no clear effect on the provision of community services. Naturally, the main aim in Japanese cable policy, community-enhancement by cable, would be quite difficult to achieve if Japan followed the recent patterns of U.S. cable development.

Key words: cable television, community, cable-viewing behavior, U.S.A., field survey, local-origination, access channels

抄　録

わが国の政府や地方自治体は，80年代半ばからケーブルテレビの普及を強力に推進している。その目標は，ケーブルによる地域社会の活性化にある。

ケーブルは米国でいかに機能しているのか。カリフォルニア州ロサンゼルス郡 Palos Verdes において，ケーブルと地域社会の関係を実態調査した。

結果によれば，市当局，学校，図書館などは，議会を中継したり，各種の案内情報を流すなどのケーブル利用を行っている。ケーブル事業者の地域貢献への姿勢も積極的である。しかし，住民のケーブル加入目的は，テレビ放送難視聴の解消とあわせて，視聴できる番組の多様化にある。地元のアクセスチャンネルの視聴量は非常に少ない。

米国のケーブルテレビは，従来からのテレビ放送の特徴を一層推進しているのであり，地域利用については効果は現れていない。わが国が米国と同様の形態のケーブル普及を図ろうとするなら，ケーブルによる地域社会の活性化は困難であると思える。

キーワード：ケーブルテレビ，地域メディア，番組視聴，米国，実態調査，自主放送，地域社会

1.0 問　　題

1.1 ケーブルテレビ論の三類型

いわゆるニューメディアの最先鋒として期待されるケーブルテレビであるが，その議論はいくつかに大別できるようである。

第一に，1960年代半ば以来続いてきた「地域情報メディア」としてのケーブルテレビ論がある。コミュニティレベルの情報を入手するためのメディアは印刷物が中心になっており，もっとも効果の高いとされる映像系あるいはテレビ放送系のメディアは，空中波を利用する手段では成立しない。そこで，地域にケーブルテレビ局を置き，地域的な自主制作の放送を住民に向けて行ってはどうかというものである。

第二には，「多チャンネルテレビ放送」の地域的な伝送路としてケーブルテレビを位置づける論議がある。70年代後半になって米国で登場した衛星ケーブルチャンネルの台頭を意識した期待であり，周波数の物理的有限性によって制約される空中波テレビ放送のチャンネル数の限界を，ケーブルをテレビ放送信号の伝送路に利用することで，100チャンネル以上にまで拡張しようというビジョンである。

ケーブルのこの伝送容量の大きさをテレビ放送の多チャンネル化だけに使うのではなく，それも含めて，有線メディアの持つ双方向通信の機能に一層注目する結果，第三として，多機能の「高度情報通信ネットワーク」としてのケーブルテレビ論が登場する。ここでは，ケーブルテレビ事業者は一般情報提供事業者の供給する種々の情報を契約者に送り届けたり，加入者同士の通信に伝送路を開放するなど，従来の第一種電気通信事業者と同様の通信サービスを実施する。ただし，在来型電話回線より格段に大容量で高速の通信ネットワークなのであるから，提供できる情報と機能の質量的な高度さに特長がある。異種メディアを統合したり，いわゆるマルチメディアの伝送系を支えるインフラストラクチャーとして言及することも多い。テレビ番組型の広域ビデオ情報や，各地元の地域情報なども伝送サービスの対象になるので，この第三のタイプのケーブルテレビ論は，サービスのメニューとして前記第一と第二のタイプを包含するだろう。

このような整理に従えば，わが国のケーブルテレビ政策は地域情報メディアとしての特質を前面に押し出しつつ，いわゆる都市型CATV事業推進の姿勢には，多チャンネルテレビ放送システムとしての期待が見いだせるし，双方向機能に対する将来的な展望も視野に入っているようである。しかしこれまでのところは，地域情報化推進の基盤としてのケーブルテレビ事業が，公的な各種構想の中心になってきた。対して，ケーブルテレビ先進国といわれる米国では，地域メディアとしての役割も紹介されてきたが，数10チャンネルの専門型衛星ケーブル番組で人気の，多チャンネルテレビ放送システムとしての話題が近年とくに豊富である。

では，地域メディアとしてのケーブルテレビの可能性は，米国では実現していないのだろうか。

事業者，行政当局，そして住民らは，ケーブルテレビの利用価値をどこに置いているのだろうか。

いうまでもなく，ケーブルテレビは放送あるいは電気通信領域のサービスに使用されるのであるから，その普及動向を分析するには，ケーブルテレビをとりまく法制度的環境を勘案しなければならない。わが国のケーブル政策についてのレビューは他に譲るとし[1]，つぎに，米国のケーブルテレビ事業が今日に至った法制度の流れを簡単にふりかえりたい。

1.2 米国ケーブルテレビ規制の推移

1.2.1 テレビ放送の開始期とケーブルテレビの誕生

米国のテレビ放送は1939年のニューヨークで開催された万国博覧会に始まり，41年11月時点で，すでに32の商業局が事業免許を得ていた。しかし，本格化するのは第二次世界大戦後になり，終戦直後の48年までには29局が放送を実施し，免許を得ていた局は80に昇っていた。さらに，FCC (Federal Communications Commission, 連邦通信委員会）の手元には300件以上の新規放送事業免許の申請が提出されるに及び，テレビ受像機の生産が需要に追いつかないこととあわせて，この審査能力を超える申請数に困惑した FCC は，48年9月，新規免許の交付凍結を決定した。

凍結決定以前に免許を交付されていた事業者には凍結期間中の事業開始が認められていたので，50年に放送を行っていたのは105局になっていた。とはいえ，ほとんどの都市にはテレビ局はせいぜい1局しかなく，2～3局あったのは全米でわずかに24の市だけであった。

この新規免許の交付凍結は，52年になって解除される。FCC は同年，「Sixth Report and Order」を採択し，早くもカラー放送の統一規格を決定すると同時に，全米に及ぶチャンネル割り当てプランをまとめた。全米で242の非商業局のために新規チャンネルを確保するとともに，従来の regional service から local service へとテレビ放送の社会的役割を絞った上で，UHF 帯の14～69チャンネルを新規テレビ局に割り当てることにした[2]。

このような FCC による初期のテレビ放送規制が，ケーブルテレビの登場を導いたといえなくもない。つまり，1939年にテレビは万博という場で国民にお披露目され，同年には放送が始まったにもかかわらず，すぐに世界大戦で中断した。戦後，ようやくテレビ視聴が身近になると思うや否や，新規放送局の増加は政策的に抑制された。したがって，大都市圏から離れた地域の住民らにとっては，テレビ放送を視聴したいという願望は相当に強いものであったと推測できる。また，凍結解除後の UHF 局による新規チャンネルにおいては，VHF 局とくらべて，電波の到達

1）わが国のケーブルテレビ黎明期から80年代に向かうまでの推移は，拙稿「ＣＡＴＶの効用をめぐる諸問題」（『関西大学大学院・人間科学』第17巻，1981，pp. 3-27）でレビューしている。

2）米国のテレビ放送黎明期については，以下を参照。Joseph R. Dominick, Baray L. Sherman, & Gary A. Copeland, *Broadcasting/Cable and Beyond: An Introduction to Modern Electronic Media*, 2nd ed. (McGraw-Hill, 1993), pp. 45-73.

範囲が狭い点とともに，建築物等による受信障害を生じやすい難題が現れる。

これらテレビ放送視聴のニーズに応えるべく，1948年には最初のケーブルテレビが登場している。大都市から65マイルほど離れた山間の町で，テレビ受像機の販売活性化を意図して，その大都市で視聴できる3局の信号を山頂のアンテナで受信し，ケーブルを木から木へと渡して平地まで引っ張るという単純なシステムである[3)]。

同様のケーブルテレビが，免許凍結期間中も，そしてその後のUHF局増加の時期にも，都市周辺地域で増加したものと思われる。しかし，「勝手に」始まって，徐々に増加していったのである。

1.2.2 60年代：強い規制の時代

ケーブルテレビに対するFCCの姿勢は，最初の10年以上もの間，我関せずであった[4)]。FCCの規制権限が及ぶのは無線通信と州際通信に限られており，狭少の地域社会で完結する有線システムは州など地方自治体の管轄であった。事実，1958年の州地裁判決[5)]に続いて，59年には，FCCはケーブルテレビが自己の管轄外だと明言している[6)]。FCCがケーブルテレビに関与するのは，62年，ケーブルテレビ事業者にマイクロウェーブを使ってテレビ信号を伝送していた無線業者に，その業務の禁止を命じた時である。間接的にケーブルテレビのサービスに触れたわけである[7)]。

64年には，ケーブルテレビが移入する遠方局の番組が地元局のものと同じである場合，ケーブルテレビ事業者は遠方局の当該番組をblack outすることという，最初のケーブルテレビ規則を定めた。翌65年，マイクロウェーブ使用のケーブルテレビに対する規則を明示[8)]。翌66年になって「ケーブルテレビに関するSecond Report and Order」を採択し，「すべてのケーブルテレビに対する管轄権はFCCにある」と公示するにいたる[9)]。

3）Felix Chin, *Cable Television: A Comprehensive Bibliography* (New York, N.Y., Plenum Publishing, 1978), p. 1 参照。

4）以下で紹介するケーブルテレビに関する50年代から80年代半ばの司法・行政等の動向は，主に次の資料で照合を進めた。Harvey L. Zuckman, Martin J. Gaynes, T. Barton Carter & Juliet Lushbough Dee, "Cable and New Technologies," in H.L. Zuckman et al., *Mass Communications Law,* 3rd ed. (St. Paul, Minnesota, West Publishing, 1989), pp. 479-503. Felix Chin, "A Chronology of Major Decisions and Actions Affecting CATV," in F. Chin, *op. cit.*, pp. 156-173. 増田悦三「米国のＣＡＴＶ規制の歴史」（増田編著『米国ＣＡＴＶ法　註解（1984年ケーブル通信政策法）』情報通信総合研究所，1986, pp. 56-75).

5）ワイオミング州での地裁判決。同前『米国ＣＡＴＶ法　註解』pp. 58-59.

6）1959年4月14日。Chin, *op. cit.*, p. 156.

7）1962年2月16日，Carter Mountain Transmission社の申請をFCCが却下。1963年5月23日には，コロンビア地区控訴裁でこのFCC裁定は支持された。*Ibid.*, p. 156.

8）1965年4月23日に採択されたFCCの「ケーブルテレビに関するFirst Report and Order」（裁定）で。*Ibid.*, p. 157.

9）1966年3月8日。地元再送信を義務づけるMust-carry rule, 地元局と同一番組を他都市から移入するのを禁じるNon-duplication rule, ネットワーク以外の加盟番組は同一日の再送信を禁じるExclusivity ruleなどを明示。前出『米国ＣＡＴＶ法　註解』pp. 60-61およびChin, *op. cit.*, p. 157.

最初のケーブルテレビ登場から20年近く経過して，ようやくケーブルテレビは制度的に位置づけられたのである。その理由は明確である。地元テレビ局の市場保護と，さらには FCC が形成しつつあるテレビ放送秩序の保持である。といっても，一般テレビ放送事業へのケーブルテレビによる現実的な被害はごく小さなもので，65年当時のケーブル普及率は全米で２％にすぎなかった。したがって，ケーブルテレビの将来的な発展を抑止する意図が強かったと考えられる。そのためには，ケーブルテレビにあらゆる種類の制約が加えられた。大都市圏での新設禁止はもとより，自主制作番組や地元広告の放送も抑制された。地元放送局の商売をじゃましない限りは存在してもやむを得ない，といった程度の認識であった。

FCC による強硬なケーブルテレビ規制は，一般テレビ放送事業者からの陳情に応えてのものでもあったようだが，米国政府や司法当局の姿勢は，60年代末期にはずいぶんケーブルテレビに寛容になっていた。68年には，連邦司法省は，ケーブルテレビが競争力あるメディアとして発展すべく，番組の自主制作や独自の広告放送を認めるよう FCC に要求している[10]。また，69年に提出された「Report of the President」は，ケーブルテレビは番組の多様性と地域性を促進する最良の手段であると述べ，ケーブルテレビ規制を緩和するよう FCC に命じた[11]。同様に，70年，連邦司法省は，もっと自由主義的な規制策を講じることで，ケーブルテレビの可能性を開花すべきであるとして，FCC が提案する規則を非難[12]。71年には，当時のニクソン大統領がケーブルテレビ研究のための特別委員会を設置している[13]。

1.2.3　70年代：1972年規則～規制緩和の兆し

政府や司法当局に押し切られるような形で，1972年，FCC はケーブルテレビの将来に関する包括的な基本方針を「ケーブルテレビに関する Third Report and Order」で公表し[14]，それまでのひたすらな禁止的規制から一転し，メディアとしての自立を積極的に求める新たなビジョンに沿った規則を網羅した。主な規則はつぎのとおり。

(1)　遠方局の移入を条件付きで認める「May-Carry Rule」[15] の明示

(2)　地元広告の放送を容認

10）1968年４月15日，Memo on CATV で。Chin, *op. cit.*, p. 157.

11）1969年５月24日のTask Force on Telecommunications. *Ibid.*, p. 159.

12）1970年12月12日。*Ibid.*, p. 161.

13）1971年５月13日。*Ibid.*, p. 161.

14）1972年２月３日に採択し，72年３月31日から施行。

15）1972年規則以前にも，1966年以来，再送信しなければならない信号数に関する規則はあった。通常 Must-carry rule と呼び，ケーブルテレビ事業者が再送信サービスを行うとき，地元テレビ放送局の中から特定の局だけを選り好みして再送信することで生じるであろう，他の地元局への被害を防ぐ目的を持つ。ここで記した May-carry rule は，地元局以外の遠方局の信号を再送信する場合に，とりいれてもよい遠方局数の上限を定めている。Zuckman, et al., *op. cit.*, p. 488参照。

(3) 3,500以上の加入者を有すシステムに，自主番組の放送を義務化[16)]

(4) 公衆用・教育機関用・行政用のアクセス・チャンネル（いわゆる PEG チャンネル）設置を義務化

(5) 20チャンネル以上の容量を備え，双方向サービスへの技術的対応を行っておく

(6) ケーブルテレビ利用料金の適否判定は，自治体の権限で行う

これらの規則を細かに定めることで，FCC は，地域性，多チャンネル性，双方向性などの多様な機能を持つ，まったく新種のメディアとしてケーブルテレビを育成せんとしたのである。地元局以外のテレビ局の信号を移入することも認めてはいるが，チャンネル容量に応じて遠方局数には上限が設けられており，その意味では，空中波テレビ放送とは別種の地域的な高度映像情報メディアとしての方向性を打ち出したといえる。

しかし，ケーブルテレビの成長を空中波テレビ放送秩序の中にひたすら抑制しようとする60年代の姿勢とは異なるものの，当時の司法省などが要求する「自由主義的規制策」とはかけ離れた「厳格な規制による成長」を志向したものであった。

したがって，1972年の規則は，議会の要求や司法当局の命令などが相次ぐ中で，急速に効力を弱めていく。74年には，大統領特別委員会はニクソン大統領に対して，「ケーブルテレビ産業を中立的なシステム(あるいはケーブル)オペレータ事業者と，それと独立した番組事業者に二分することで，ケーブルテレビは広く開かれたメディアになり，その暁には，ケーブルテレビに対するほとんどの行政の規則は不要になる」と提案した[17)]。このソフトとハードの分離提案には，一般の放送事業者は批判的であったが，翌75年のペイケーブル番組に関する FCC 規則の緩和もあってペイケーブル番組事業者 HBO (Home Box Office) が75年に，そしてテッド・ターナー率いる現在の TBS (Turner Broadcasting System) が76年に，国内衛星通信事業への多数参入政策によって実現した民間の国内通信衛星 Satcom I を利用して，全米のケーブルに向けて番組供給を開始した。以後，この種の衛星ケーブル番組供給事業者は急増し，空中波テレビ放送とは異なる多彩なケーブルチャンネルの時代を迎えていく。

1.2.4 80年代：1984年法～大量普及へ

では，地域情報メディアとしての役割についてはどのように展開したのか。

76年の下院コミュニケーション委員会は，FCC の保護主義的な政策がケーブルの発展を阻害しているとし，FCC 規則は「それを与えられる受け手大衆よりも個々のテレビ放送事業者への配慮で」構成されており，ほとんどの連邦ケーブル規則は取り払い，市場に決定権を委ねるべき

16) 1969年10月24日，FCC はすでに，全ケーブルテレビで自主番組を放送できるとし，さらに3,500件以上加入のシステムには71年1月1日までに自主番組を作るよう求めていた。Chin, *op. cit.*, p. 159.

17) 1974年1月16日。*Ibid.*, p. 163.

だと警告した[18]。そのとおり，FCC 規則は次々に緩和あるいは撤廃されていく。たとえば，72年規則で明示した自主放送の義務づけについては，後に PEG アクセスチャンネルの設置義務に吸収させるが，これも80年までには FCC 規則としては撤廃してしまう[19]。ただ，チャンネル容量や双方向機能などの技術基準に関する規則は，76年に「事業開始の10年後」という緩和条件を付すものの[20]，以後も継続し，72年規則以降に設置されるケーブルテレビの多チャンネル化を促進した。

地域メディアという束縛からも開放され，衛星ケーブル番組の増加に対応できる多チャンネル・ケーブルテレビの時代へと一気に進む条件が整ったように思えるが，70年代後半のケーブルテレビ事業は，いまだ経営的には苦しい状況にあった。ケーブルテレビ普及率の方は79年には全米で21％に達するほど，順調な増加を続けたのである。しかし，ＦＣＣ規則としては撤廃された細かな条件は，州，市町村など自治体の規制権限下へと委譲されたのである[21]。地域でのフランチャイズを獲得しようと自治体に申請するケーブル事業者に対して，自治体は PEG チャンネルはもちろん，自主放送や種々の非放送型の双方向サービスを求めたり，地域のためにスタジオ建設を要求するなど，ケーブル事業者にすれば「法外な」条件を出してくる。しかも，連邦レベルでの規則が曖昧になっているので，各自治体間のフランチャイズ条件が大きく異なるという問題も出ていた。

ケーブル事業者らの反発は，「1984年ケーブル通信政策法」(Cable Communications Policy Act of 1984) によって満たされることになる[22]。同法のねらいは，

(1) ケーブル通信に関する包括的な国家政策の明確化

(2) フランチャイズの付与と更新等の条件及び手続きの明確化

(3) ケーブル事業における競争の促進と，規制の緩和

(4) 多様な情報サービスの奨励

などを主としている[23]。

つまり，フランチャイズ付与権限が自治体にあることを確認した上で，フランチャイズ付与条件については FCC の定める基本細目に従うとした。これによって，各自治体が限度を超える条件をケーブル事業者に課したり，地域間の条件格差が極端に大きくなるなどの問題は押さえられることになった。PEG アクセスチャンネルについても，「設置要求ができる」と改め

18) 1976年1月26日の Staff Report. *Ibid.*, p. 166.

19) 前出『米国ＣＡＴＶ法　註解』p. 88-89.

20) 1976年4月2日。Chin, *op. cit.*, p. 166.

21) 1978年の FCC 規則改正で，ケーブルテレビ事業者は FCC には登録するだけで済むが，フランチャイズを自治体から得て，そのフランチャイズ条件に従うこととなった。前出『米国ＣＡＴＶ法　註解』p. 70-71.

22) 1984年法については，以下を参照。Zuckman, et al., *op. cit.*, pp. 485-503. 同法の条文原文および解説は前出『米国ＣＡＴＶ法　註解』を参照。

23) 1984年法，SECTION 601を要約。

た[24]。その他の義務づけ条項も緩和することで，ケーブルサービスの内容の多くは，自治体とケーブル事業者間の対等な交渉に任せている。

1984年法以降，ケーブル事業者は利用料金の改定においても自由度が大きくなり，以前の自治体からの法外な要求による施設設置のための初期投資や維持経費負担も軽減していく。その結果，大手資本によるケーブル施設買収が加速するなど，ケーブルオペレータ事業は「儲かるビジネス」へと転換していった[25]。いまやケーブル加入者は，全米テレビ所有世帯の60%を超えるに至ったのである。

1.2.5 90年代：突如の転換，1992年法

ブッシュ政権の末期，「1992年ケーブルテレビ消費者保護および競争法」(Cable Television Consumer Protection and Competition Act of 1992)[26] が新たに制定された。92年9月22日に議会通過した同法案は，ある意味で非常に規制色の強いものであったため，翌10月3日に大統領は拒否権を行使して議会に戻したのであるが，同5日，上下両院は三分の二以上の賛成によって再度覆し成立させた[27]。ブッシュ政権時代に大統領拒否権が議会に拒否された唯一のケースであった。なお，この法案は FCC が議会に立法を働きかけたのではない。その点で，FCC のケーブルテレビ規制の流れにおいては，非常に唐突観のある趣旨を持つ。当然ながら，議会での多数派民主党から直後に立って新たに座に着いたクリントン大統領は，いわゆる1992年法を着実に実行して行くと思われる。

同法の各規則は92年12月から94年にかけて段階的に適用されていくので，現実的な効果はいまだ定かではないが，1984年法以降に明らかになってきたケーブルテレビ事業によるビデオ市場の独占状況を是正する目的が中心である。非競争下にあるケーブルオペレータは現行の基本サービス料金を10%以内引き下げ，その後の値上げは，値下げから120日間凍結した上で，物価上昇率以下に押さえねばならないことになった。FCC はこの料金規定だけで，全米のケーブル加入者のうち四分の三が救済されると見積もっている[28]。料金決定の裁量権は自治体にあるが，各自治体は FCC の資格審査を受けてガイドラインに従わなくてはならない。この種の料金規則の他にも，消費者保護を意図する規則は多い。システムのチャンネル数に応じて再送信する一般放送局数の下限を定めたのも，本来は広告などの収入によって無料で番組視聴できるはずのテレビ放送

24) 1984年法，SECTION 611。

25) 次項の1992年法の SECTION 2 には，「1984年法の規定に従って1986年12月以降，ケーブルテレビ料金は全フランチャイズの内97%で規制緩和されてきた。平均して，チャンネル数は24から30へと増加し，月額料金は29%増加した。この間の消費者物価指数の約3倍もの値上がりだ」と述べられている。

26) 1992年法に関しては，同法原文のみを参照。

27)『海外電気通信』1992年11月号（財団法人・電気通信政策総合研究所）p. 2.

28) 1992年法に従って，FCC はこの新料金規則を93年4月1日に定めた。『海外電気通信』1993年5月号，pp. 35-38.

が，ケーブルテレビの利用料金の形で，事実上は消費者が負担しなければならなくなっている現状を批判してのものである[29]。

また，通信衛星経由の衛星ケーブル番組を，ひとりケーブルテレビ事業者だけが独占的に住民に伝送している状況を問題視し，ケーブルテレビ事業者以外の競合事業者に対してもケーブル番組を開放するよう義務づけた[30]。競合事業者として具体的には，地域電話会社によるビデオ伝送サービス[31]（ビデオ・オン・デマンドあるいはビデオ・ダイヤルトーン）と直接衛星放送事業者の参入を想定しており，ケーブルオペレータ事業と衛星ケーブル番組供給事業の垂直的統合が進む中で，新規ビデオ伝送事業にケーブル番組をケーブルテレビと同条件で供給させようとしている。

70年代後半から90年代初頭までの長期間，相次ぐ規制緩和によって脅威的成長を示してきたケーブルテレビ産業であったが，1992年法の制定で，今後現状の維持さえ危うくなるのか，それとも，もはや揺るぎない強固な地盤を持つことを証明するのか，予断を許さなくなった[32]。

1.3 研究目的：米国ケーブルテレビの地域メディアとしての実態は

このように変遷してきた米国のケーブルテレビ規制であるが，わが国のケーブルテレビの将来を考える上で重要な分析視点は，ひとつには，ビデオ伝送サービスにおいてケーブルテレビは今後とも圧倒的に優位な立場を固守するのかという，産業的側面にかかわるものである。しかし，本稿で迫りたいのは，ケーブルテレビが社会生活の中で果たす社会的機能の側面である。米国のケーブルテレビ産業が全体として規制緩和の流れの中で成長を遂げてきた事実は疑いない。今日の衛星ケーブル番組の豊富さは，テレビ番組の多様化を促進したその貢献を裏付けていよう。では，多チャンネルのテレビ放送システムという以外に，ケーブルテレビが日常生活の中で演じている役割にはどんなものがあるのだろうか。

連邦レベルでの規制は早くから緩和され，1984年法以後には，自治体の規制権限にも制約が加えられた。といっても，わが国のケーブルテレビ政策が一貫して重視してきた地域情報メディアとしての役割は，米国では，自治体のフランチャイズ付与あるいは更新時の要求事項として84年法以後も残ってきた。具体的には，PEG アクセスチャンネルの運用やアクセス番組制作のためのスタジオなどハードウェアの準備などは，ケーブルテレビ事業者との交渉において自治体は要求できることになっている。ケーブルテレビが他の放送・映像系メディアと異なる点は，機能面

29）1992年法，SECTION 2-(a)-(10)～(12)。

30）1992年法の SECTION 12 (Communication Act of 1934 に SECTION 616 として纂入される)。

31）電話会社が自己のサービス区域でビデオ番組提供することは，1984年法で禁じられていたが，93年８月，ベル・アトランティック傘下２社の訴えに対し，バージニア州東部地裁は，この規定はビデオ番組による表現の権利を奪うものとして憲法違反との判決を下した。『海外電気通信』1993年10月号，p. 1-2.

32）早くも，93年から94年にかけて，電話会社による大手ケーブルテレビ会社買収や両者の提携などの動きが相次いでいる。

での地域密着の可能性であろう。

ケーブルテレビがなくても，地上波や衛星波を利用する無線系の放送を最大限利用すれば，数10チャンネルの多チャンネルテレビ放送を実現するのはいまや困難ではない。ビデオ番組を多様化するだけなら，レンタルや市販のビデオソフトを大量かつ安価に流通させるシステムをつくれば済んでしまう。したがって，市町村などの限られた地域社会を存立基盤にし，その範囲内でコミュニティ放送のメディアとしてケーブルテレビが機能する可能性は，他のメディアで代替困難な特長であるといえよう。

わが国のケーブルテレビの利用実態についていえば，このケーブルテレビの地域メディアとしての可能性はあまり実現していない[33]。ただし，米国では，ケーブルオペレータが主として地域社会に一定数のチャンネルを開放するアクセスチャンネルの形で地域貢献するのに対して，わが国の場合，ケーブルテレビ事業者が地域番組を自主制作することをもって地域情報メディアと称してきた。FCC の1972年規則に含まれていた Local-origination の概念と同様である。80年代半ばから盛んになったわが国各省庁自治体のいわゆる地域情報化構想や事業支援策は，ケーブルテレビを通じた地域情報流通の活性化を意図してきた。自主制作であれアクセスチャンネルであれ，ケーブルテレビの地域性に関する限り，理念としての存在価値の訴えは別にするなら，果たしてそれが成立するのか，成立するに十分な地域におけるニーズはあるのか，さらには，成立させるにはどのような条件が必要かなど，まだまだ曖昧な点が多い[34]。

果たして，ケーブルテレビは地域メディアとして機能するのであろうか。わが国では，地域社会活性化による均衡ある国土の形成，あるいは多極分散型の国土開発を行うための基盤事業として推進・優遇されてきたケーブルテレビであるが，その目的を達成できるのであろうか。

わが国のケーブルテレビの今後を考える一助とすべく，地域メディアとしての視点から米国のケーブルテレビ事業の実状を理解することを目的として，本研究では，特定のケーブルオペレータの事業範囲のもとで，実施されているケーブルサービスの内容，ケーブルテレビ事業者の地域への姿勢，フランチャイズ付与当局としての自治体のケーブル評価，地域住民のケーブルに対する態度などについて，主にヒアリングと質問紙調査によるケース・スタディを試みることにした[35]。

33）わが国のケーブル加入者の利用実態については，拙稿「情報化実証研究の閉塞：ＣＡＴＶ調査の場合」（『新聞学評論』40，日本新聞学会，1991，pp. 82-95）で詳説している。

34）地域情報化政策の問題については，拙稿「地域情報化の陥穽」（竹内郁郎・田村紀雄編著『新版・地域メディア』日本評論社，1989，pp. 91-110）で論じている。

35）本研究は，1992年４月から93年３月末まで，関西大学の在外研究員として米国に滞在することで実現した。所収の実態調査は，財団法人・電気通信普及財団の平成４年度研究助成のもとで実施した個人研究である。本稿は，同財団に提出した次の報告書に，新たに大幅な加筆と一部修正を加えたものである。拙稿「米国ケーブルテレビの地域性とその経営理念：ロサンゼルス周辺の実態調査をもとに」（『電気通信普及財団・研究調査報告書 No. 8』，1994，pp. 446-457）．なお，各調査結果の詳細なレポートは個別に公表ていく予定。

2.0 研 究 方 法

2.1 調査対象地域

米国カリフォルニア州ロサンゼルス（以下，LA と略記）郡に1年間滞在する機会を得て，同郡内で今回の実態調査を行うことにした。周知の通り，LA 郡は西海岸最大の人口と産業を抱える広大な地域であるため，その全体エリアを調査するのは容易でない。そこで，人口，産業，歴史，ケーブルテレビ普及などの諸条件を考慮して，なおかつ一つのコミュニティとして把握しやすい地区をいくつか比較した結果，LA 盆地西南部の太平洋に面した丘陵地，Palos Verdes 地区を調査地点に選定した。同地区には Palos Verdes Estates, Rancho Palos Verdes, Rolling Hills, Rolling Hills Estates の4市（以下，PVE, RPV, RH, RHE と略記）が含まれ，4市すべてを対象に MSO (Multiple System Operator) の一つ Times-Mirror Cable 社が Dimension Cable of Palos Verdes の名でケーブルオペレータ事業を展開している。

同地区は LA 郡の中でも定評の優良コミュニティであり，住民の地元意識も非常に高いとされる。このような地域でのケーブルテレビ事業の実態を把握するために，92年4月から翌93年4月までの期間，以下のような調査を実施した。

なお，米国滞在中の同年4月から7月初旬までは，Palos Verdes に隣接する Torrance 市に居住していたが，実際に Palos Verdes の住民となって同地区の実状やケーブルサービスの内容などを理解するために，同年7月中旬からは RPV 市に，そして翌93年1月下旬から3月末までは PVE 市に居住することとした。

2.2 調査方法

2.2.1 ヒアリング調査

1992年4月から6月にかけては，ケーブルや情報化関連の基本的文献資料の収集を行い，同年7月から8月までは Palos Verdes 地区の地域的特徴に関する資料収集と地元歴史家等へのインタビューを行った。8月末から Dimension Cable 社への訪問を開始し，以後翌93年3月末までインタビューを継続した。事業全般については同社の General Manager が，またアクセスチャンネル関連事項ではアクセス担当者が主としてインタビュー相手となった。

92年10月から12月の期間には，4市の市当局，同地区の図書館区（Palos Verdes Library District）と学校区（Palos Verdes Unified School District）役人などへのインタビューを実施した。各々に対して2～4回程度行った。また，LA 市電気通信局へも93年2月にインタビューを行った。

調査期間末期の93年3月には地元電話事業者の GTE 社を訪問し，同社のビデオ伝送サービ

スへの取り組みなどを調査した。同時期には，南カリフォルニア地域での直接衛星放送サービスを94年から開始する計画の Hughes Communications 社にもインタビューを申し込んだが，日程調整ができず，同社広報課からプレスレリース用資料などを受け取るにとどまった。

2.2.2 質問紙調査

92年9月末には，ケーブルサービスに対する住民の意見を収集するために，予備的な質問紙調査を戸外で面接法によって実施した。質問の半数は量的処理のための項目，他は多様な意見を集める目的で自由回答にした[36]。有効回答は約80票であった。

この予備調査の結果をもとにして行政やケーブル事業者へのインタビューを以後進め，93年1月からは，住民対象のより大規模な質問紙調査の具体的準備作業を始めた。米国では郵送での調査は他の DM 類に混じって放棄されやすく，まして戸別訪問を受け入れる家庭は非常に少ない。したがって，調査の実施方法は電話調査にすることとしたが，数百の実効回答を得るような大規模調査を請負える調査会社の選定に再度時間を費やし，結局，当方で作成した質問票[37]を用いて，サンプリングとインタビューのみを委託する契約を交わしたのは3月末，実際に調査を実施したのは4月初旬になった。ちなみに，各家庭の電話番号を漏れなく入手するのは通常は不可能に近く，その面からも現地調査会社に実査を委託することにした。有効回答は約400票であった。

3.0 結 果 概 要

3.1 ケーブル事業者・自治体等ヒアリング結果

3.1.1 Dimension Cable of Palos Verdes のサービス

(1) 設 置

Palos Verdes にケーブルが初めて設置されたのは1958年のことであり，難視聴地域対象に個人経営の施設で事業は始まった。丘陵地の南側地域を対象に運用されていたのを，Times-Mirror 社は1969年に買収し，Dimension Cable of Palos Verdes と名乗った。この施設は，Times-Mirror 社にとって初めて手掛けるケーブルテレビ事業であった。しばらくは難視聴解消サービスのみの実施であったが，1975年に HBO が衛星配信開始して以降，衛星経由のケーブルチャンネルのサービスを加入者に提供し始めた。

(2) 対象地域

1987年以前は RPV 市と PVE 市の一部，そして LA 市の行政区域である San Pedro の一

36) 予備調査の質問票は本稿末尾の[資料1]。
37) 電話調査の質問票は本稿末尾の[資料2]。

部だけがサービス対象であった。その後，87年から89年にかけて RPV 市の残る8,000世帯にケーブル敷設し，同じ89年には RHE 市，90年には PVE，最後に91年に RH 市にケーブルを敷設した。San Pedro 地区には米軍基地の住宅地域2種も含み，また，Palos Verdes 地区には4つの市に併合されるのを拒否する LA 郡直轄地域も残ることから，ケーブルサービスは PVE, RPV, RH, RHE, LA 市，LA 郡，米軍基地2の合計8つの異なったフランチャイズ契約書に従っている。

(3) 加入世帯

1968年には約6,000世帯の加入であったが，**Table 1** のとおり，93年1月末時点では，約27,600世帯加入になっている。同一区域内でのケーブル敷設世帯数との比でいえば，サービス地域全域での世帯加入率は61.3％，その内 Palos Verdes 地区全体では72.1％に達する。なお，Palos Verdes 地区でのケーブル敷設率については，91年度国勢調査の数値に基づくと，各市ともにケーブル敷設対象地区内の世帯数実数の方が国勢調査データを上回っており，適切な算出は不可能であった。Dimension Cable 役員は「ほぼ100％の敷設率である」と答えており，おそらくその数値に近いと思える。

Table 1 Dimension Cable of Palos Verdes の加入者（1993年1月現在）

Franchise Area	Homes Passed	Basic Subscribers	Penetration Rates (%)
Palos Verdes Estates	5,490	3,787	69.0
Rancho Palos Verdes	15,968	11,863	74.3
Rolling Hills	693	364	52.5
Rolling Hills Estates	2,828	2,008	71.0
Total of Palos Verdes	24,979	18,022	72.1
Los Angeles County	890	545	61.2
San Pedro	17,843	8,081	45.2
Naval Housing	770	588	76.3
Air Force Housing	654	487	74.4
System Total	44,987	27,589	61.3

73年当時の加入率は約40％であり，84年以降に急速に加入は進んだという。未加入者は，総じて，伝統的なネットワークの番組を好む人たちであり，自宅周辺がケーブル未敷設というわけではないらしい。なお，国内通信衛星受信用のサテライトアンテナの設置者は，同社の推定では，サービス地域全体で1,000件以下となっている。

(4) サービス内容・料金

現在のシステムは54チャンネルの容量をもち，プレミアムチャンネルが5，Pay-Per-View は2，未使用が4，そして残る43チャンネルが三種類のベーシック・サービスになっている（**Table 2**）。多くの人が加入する最上位のベーシック・サービスで，リモートコントロールを含む毎月の利用料金は92年現在で22.95ドルであり，毎年一定額の値上げを行ってきた。値上げの理由は，同社によれば，消費者物価とは関係なく，1チャンネル当りの料金である。たとえば，87年には

Table 2 Dimension Cable of Palos Vardes のチャンネル構成（同社パンフレットより）

Dimension Cable Services
1992 Channel Line-up

Effective June 1, 1992

Cable Channel	Network	Description
1	**Cinemax**	Top quality movies. The most movies on pay TV.
2	KCBS	Ch. 2, CBS Los Angeles
3	Government Access	Peninsula
	California Channel	San Pedro
4	KNBC	Ch. 4, NBC Los Angeles
5	KTLA	Ch. 5, Ind. Los Angeles
6	KWHY	Ch. 22, Ind. Los Angeles
7	KABC	Ch. 7, ABC Los Angeles
8	WTBS	Atlanta Superstation - Movies, live sports, specials and series
9	KCAL	Ch. 9, Ind. Los Angeles
10	C-SPAN	Live telecasts of the U.S. House of Representatives
11	KTTV	Ch. 11, Ind. Los Angeles
12	Peninsula Showcase Leased Access	
13	KCOP	Ch.13, Ind. Los Angeles
14**	CNN	24 hour in-depth news
15**	ESPN	24 hour sports programming including NFL Football and Major League Baseball
16**	USA Network	Action series, sports, original movies & family programming
17**	Lifetime	Information and entertainment for today's woman
18**	TNT	Made-for-cable movies, sports, children's programs and dramatic series
19**	The Discovery Channel	Exploring nature, science history and technology
20**	American Movie Classics	The greatest films of Hollywood's golden years
21**	Bravo	Classic and international films
22**	Comedy Central	Comedy programming
23	C-SPAN II	Congress and government
24	KSCI	Ch. 18, Ind. San Bernardino
25	KDOC	Ch. 56, Ind. Orange County
26	KCLS	Ch. 58, PBS Los Angeles
27	Learning Channel	Educational programs for adults
	Educational Access	
28	KCET	Ch. 28, PBS Los Angeles
29	KOCE	Ch. 50, PBS Orange County
30	**The Movie Channel**	The only national 24-hour all movie premium channel
31	**HBO**	Hit movies, original films, comedy, championship boxing
32	**Showtime**	Exclusive movies, original comedy series, music specials and family programming
33	Public Access	
34	KMEX	Ch. 34, Ind. Los Angeles
35	California Channel	Peninsula
	L.A. City Government	San Pedro
36	**The Disney Channel**	Quality family entertainment, original series, classic Disney programs and movies
37*	Nickelodeon	Programming for young people
38*	A&E	Comedy, drama, documentaries and performing arts
39*	CNBC	Business, financial news service
	Prime Ticket	Lakers Basketball and Kings Hockey
40*	Family Channel	Family programming including dramas, classics, movies & childrens programs
41*	Weather Channel	Live 24 hour broadcast of national and local weather
42*	TBN	Religious Programming
43*	MTV	24 hour music videos
44*	HSN	Home shopping channel
45**	Sneak Previews	
46*	TNN	Country entertainment and music
47*	VH-1	24 hour contemporary and classic music videos
48	Future	
49	Future	
50**	CNN Headline News	Top news every 30 minutes, 24 hours a day
51	**Viewer's Choice I**	Pay-Per-View
52	**Viewer's Choice II**	Pay-Per-View
53	Future	
54	Future	

*Available with Dimension Service
**Available with Preferred Dimension Service
Bold indicates optional Premium & Pay-Per-View services

30チャンネルで15.95ドル，つまり1チャンネル当り52セントであったが，92年も同様に53セントであり，衛星経由のチャンネルによるサービス増であるから，ケーブル事業者から番組供給会社への受信料金支払いも増えるので，一定額の負担を加入者にも求めているという。加入料金は現在50ドルである。新規加入者や既加入者確保のために，年4回ほど料金面での特別サービスを実施している。

通常のテレビ放送再送信の他には，「Digital Cable Radio」というオーディオ放送がある。各種音楽だけの19チャンネルの専門放送で，テレビとは別に，契約時に25ドル，毎月9.95ドルの利用料金が必要となる。このサービスは始まって間がなく，契約者はごくわずかだという。

(5) アクセスチャンネル

通常の再送信サービス以外には，88年からパブリック・アクセス用チャンネル（Ch33）を開始した。それ以前にも有志住民が持ち込んだ番組テープを流してはいたが，同年になってスタジオを作り，「Programming-for the community, by the community, about the community」を謳い文句として，スタジオと内部の装置すべてを提供し，担当者を配置して制作全般に渡る支援を行ってきた。毎週5日～6日間，1日6～8本の番組を流している。

行政用アクセスチャンネルは市議会中継が中心で，やはり88年に RPV 市とのフランチャイズ契約によって開始し，90年から RHE 市の市議会中継も加わった。91年には LA 市の議会中継も始まったが，この方は San Pedro 地区しか見られない。RPV 市に対しては，市のホールでの議会を中継するための映像関係装置の提供とそのメインテナンスを Dimension Cable が負担し，実際の現場中継はボランティア住民が行っている。RHE 市に対しては，市議会中継のプロデュース自体を Dimension Cable が行い，その経費は市が支払っている。LA 市には，Dimension Cable は現金を渡し，市は議会中継に必要なすべての装置を購入した。米軍基地住宅では，住民自身がキャラクタージェネレータで文字番組を制作し，ケーブル会社は Ch3 を彼らに開放しているだけである。

これら各市とケーブル会社との協力負担関係は，すべて個別のフランチャイズ交渉で定めたものである。市議会中継を実施していない PVE 市と RH 市は，そのフランチャイズ交渉において議会中継をケーブル会社に求めなかったわけである。

この他には，Ch12 で主として Palos Verdes 地域の各種ビジネス事業者用の案内番組も流している[38]。これは，アクセス番組というよりは，広告に近い形態であり，ほとんどが短い CM やいわゆるインフォマーシャルであった。Palos Verdes 地区内の事業者の場合には Dimension Cable が制作を請負っているものもあるが，広域対象の事業者においては，外部制作の CM を持ち込んでいる場合が通例である。

---

38) Leased Access とよばれる商業事業者向けのアクセスチャンネル。本稿冒頭のケーブルテレビ規制史では言及していないが，PEG アクセスチャンネルと合わせて，1984年法と1992年法で規定されている。

3.1.2 行政とケーブル事業者

Palos Verdes の4市と Dimension Cable は，かなり友好的な関係にある。今日まで，フランチャイズ交渉において法外な要求がケーブル会社に出されたことはなく，ケーブル会社もほとんどの要望は実現してきているという。RPV 市と RHE 市には市職員にケーブル担当者がおり，日頃から相当頻繁にケーブル会社役員と接触していた。両市ケーブル担当者とも本調査の一環で面談を数回行ったが，Dimension Cable に対してはいずれも高い評価をしていた。一つは，Dimension Cable の General Manager である Steve Fowler 氏の努力に対するもので，同氏の市への支援的な姿勢に敬意さえ抱いているようである。もう一つは，市議会中継の効果に関するものであり，Ch3 で市議会中継を行うようになって以来，市民の市政への関心が高まってきたと評価している。議会に持ち込まれる陳情などの件数も増加し，また，中継を視聴しているうちに意見を言いたくなって車で走ってくる人もいるという。

Steve Fowler 氏の努力に関しては，長期間に渡って彼の行動を見てきた経験からすると，ともかく懸命にケーブルの利用価値を周囲にアピールしようとしていた。何か話題があると，市役所に電話し，ケーブル担当者らと相談する。また，スタジオにほぼ常駐するアクセス担当者も，実に丁寧に種々の相談に応じるので，常に誰かが番組打ち合せなどでスタジオに来ていた。日本のようにケーブル事業者自体は番組制作の当事者にはならないが，コミュニティがケーブルを有効に活用するためのアドバイザーとして，彼らは一定の役割を演じようとしている。

しかし，アクセスチャンネルの利用を除いては，どの市もケーブルで積極的に地域振興を図る計画はない。市議会は元来が市民公聴会的な性格を備えているので，ケーブルを通じて議会を見る人が増えることをねらっているにすぎない。議会以外には，やはり市公報の一環として各種の案内を Ch3 で文字放送しているだけである。したがって，公報メディアとしてはケーブルの価値を認めてはいても，わが国の地域情報化計画に見られるような，ケーブル事業を契機にした地元産業振興などといった意図はまったく存在しない。「ケーブルは単なるビジネス。なんで日本では市当局がケーブル事業に関心を強く抱くのか想像できない。ケーブル業者が儲けようが損しようが，市とは何も関係ない。」各市の助役や市長らに共通する見解であった。

市議会中継をフランチャイズの条件とはしていない PVE 市と RH 市では，「市議会は関心ある住民が直接参加すべきもの」という認識が強く，したがってケーブルでの市議会中継の必要性は今後ともまったくないとの返答であった。他の市がテレビ中継を採用している点についてまで否定するのではなく，ともかく自分たちの市には不必要という。各市の人口や地理的条件などが，評価の極端な違いになっているようである。

San Pedro 地区における行政アクセスチャンネルについては，LA 市が Dimension Cable とフランチャイズ交渉を行う。LA 市の電気通信局にインタビューしたところ，同市の行政区はダウンタウン地区以外にハリウッドなどの近郊地区が散在しているため，各々の地域ごとに当該

地区をサービス範囲に含む個別のケーブル事業者とフランチャイズ契約しなければならない。そのために，行政としては市民に平等の条件でのサービスを保証する必要があり，いずれのケーブル事業者とも同一内容の契約書を交わしているという。Dimension Cable との交渉は非常にスムースなものであり，これまでのところなんらの問題も生じていないとのことであった。

一方，Palos Verdes の学校と図書館は各市の行政下にはなく，4市にまたがって Palos Verdes 全域を対象とする統一学校区と図書館区が構成される。予算もカリフォルニア州によって配分決定されるので，市当局とは切り離れた行政組織である。学校も図書館も Ch3 で文字公報番組や定期委員会録画中継などを実施しており，ケーブルの利用価値を現在は評価中といったところである。学校については，とくにテレコム担当者が置かれており，各学校を双方向ケーブルで繋いで，種々の教員会議を開催し始めたところである[39]。いずれも Dimension Cable から装置と技術の提供を受けている。

なお，学校と図書館によるケーブル利用に関しては，Dimension Cable との間に公式に成文化された契約書類はないので，フランチャイズ条件の明確な市アクセスとくらべると，教育用アクセスの運用実態におけるケーブルオペレータの役割は重いと思われる。

3.2 住民対象の予備調査（面接調査）

3.2.1 住民インタビュー手続き

Dimension Cable あるいはケーブルテレビ一般が住民にどのように受けとめられているのか，以後の調査の基礎資料として役立てるために，92年9月19日と同20日の二日間，住民対象の街頭インタビューを試みた。両日は，地元商業会主催の年一回のフェアが屋外で開催されており，集まった市民にランダムにインタビューすることにした。調査員には，南カリフォルニア大学アネンバーグ・コミュニケーション大学院の修士課程学生3名と同博士課程学生1名の計4名があたった。準備した質問票の多くは自由回答方式とし，ケーブルに関する多様な意見の収集に努めた。

各設問への回答が曖昧すぎたり，あまりにも空欄の多いものは有効票には含めなかった。印刷した調査票に沿いつつも，回答者の表明した意見についてさらに突っ込んだ質問を続けるよう調査員には指示した。回答者がたまたま Palos Verdes 以外の住民である場合にも，積極的に回答する人の意見はケーブル一般について貴重な情報になるので，結果的には，77名の有効回答の内で9票は隣接の Torrance 市や Redondo Beach 市などの住民のものも含めた。

39）学校と図書館には Ch27 が教育機関用アクセスチャンネルとしてあてられているが，広域の教育機関の番組で構成される Learning Channel との同居である。学校と図書館は Ch3 の行政用アクセスチャンネルを利用する頻度の方がはるかに高かったので，今回の質問紙調査では Ch27 を切り離して問うことはしなかった。

3.2.2 予備調査の結果概要

(1) 加入・契約タイプ

回答者全員のうち86%は現在ケーブルに加入しており，加入満足度については，加入者の35%が「まあ満足」，60%が「非常に満足」している。プレミアム・チャンネルへの加入率は50%で，チャンネル別では，HBO，Showtime，Disney の契約が多い。過去に契約していた何らかのプレミアム・チャンネルを解約した経験のある人は46%におよび，ここでも HBO と Showtime の解約が多かった。

Pay-Per-View サービスの存在を知る人は77%に達するが，実際にオーダーしたことのある人はその内の25%にすぎない。

(2) 地域番組の視聴頻度

通常の地上放送以外の各種チャンネルの視聴頻度を，「Often」「Sometimes」「Hardly Ever」「Never」「Don't Know」で回答してもらった。対象としたチャンネルは，市行政番組（Ch3），市文字番組（Ch3），パブリック・アクセス（Ch33），商業案内（Peninsula Showcase=Ch12），州行政チャンネル（California Channel=Ch35）の五つである（**Fig. 1**）。

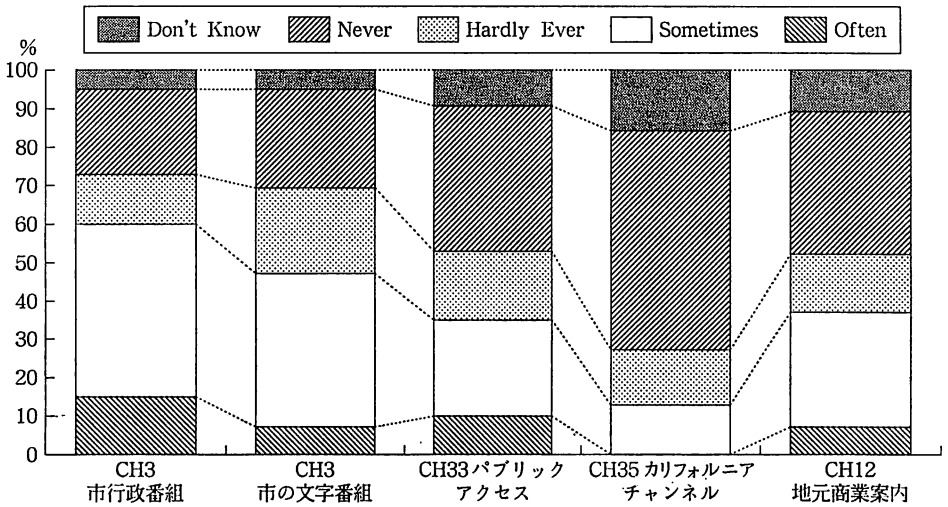

Fig. 1 Q11-Q19 コミュニティ・チャンネルの視聴頻度

まず，そのチャンネルの存在を知らない人の多いのは州チャンネルで，16%が知らない。視聴経験のない人が多いのも州チャンネルであり，57%もの人が見たことがないとした。「Often」の回答はどのチャンネルにも10%未満しかないので，Often と Sometimes を合わせて「見る」と分類し，Hardly Ever と Never を「見ない」とすれば，「見る」のもっとも多いのは市行政番組の59%，ついで市文字番組の46%，商業案内38%，パブリック・アクセス35%と並び，最低は州行政チャンネルの13%であった。「見ない」の多いのは州行政チャンネルの71%だが，ついで多いのはパブリック・アクセスの56%であり，これは商業案内の52%をわずかに上回る。しか

し，本調査実施直前に開催された街のビッグイベント，Telethon というチャリティ行事の中継番組を実際に視聴した人は13%にすぎないことからすると，全体として地域番組の視聴頻度は少ないか，あるいは視聴者はほぼ固定した人々と考えられよう。

地域情報の入手源を問うた質問でも，ケーブルを含むテレビをあげたのは13%のみであり，新聞紙の52%よりはるかに少なかった（**Fig. 2**）。ケーブルの文字番組の有効性は，限られているようである。

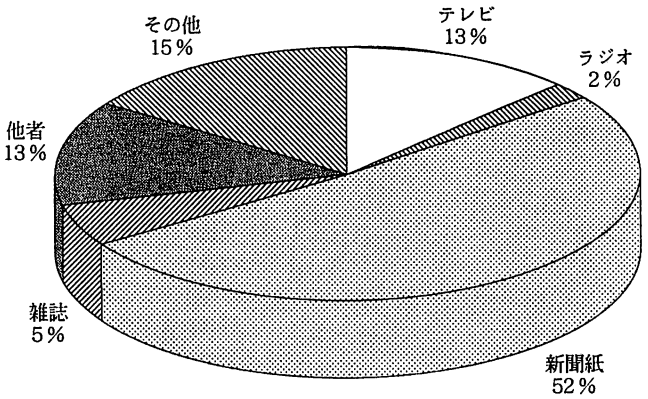

Fig. 2　Q27 地域情報源

(3)　ケーブル料金

各種ケーブル料金については（**Fig. 3**），その評価はほぼ二分しているが，全体の40%は加入料と毎月の基本料金を「妥当」としている。しかし，同じ基本料金を「高額すぎる」という人も46%に昇り，ペイチャンネル料金の47%とほぼ同数の批判があった。このペイチャンネルと Pay-Per-View 料金については，「妥当」とする回答を「高額すぎる」の回答が大きく上回っているが，後者では40%は「どちらでもない」として無関心が顕著である。

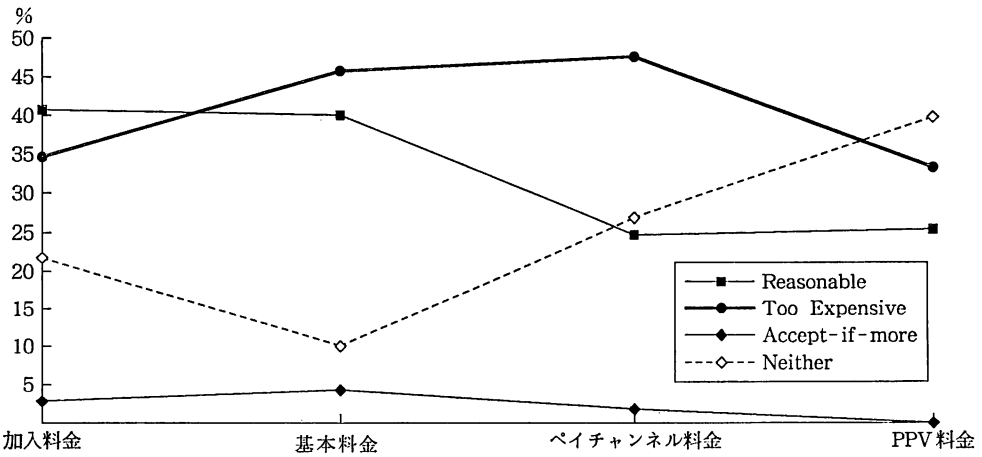

Fig. 3　Q29 ケーブル料金の評価

3.2.3 自由回答への多様な意見

本インタビューの主目的は，ケーブルに対する住民の多様な意見を収集することにあり，各問への回答について，さらに掘り下げた質問を続ける方法をとった。**Table 3** が得られた自由回答の例である。これらの回答をもとにして，以後も続けるヒアリングや93年4月実施の本調査で使用する設問を作成することにした。

Table 3 予備調査での主な自由回答

SQ1—2：ケーブルキャンセル理由
利用料金が上がったので
SQ1—3：ケーブル非加入理由
＊内容的に不必要
スポーツや映画のファンではないから
普通のテレビで十分だから
＊ケーブル施設がない
自宅の近隣にはケーブルが敷設されていない
＊割高
金を払うだけの価値がない
＊衛星受信している
衛星アンテナを持っているから
＊無関心
テレビは自宅でほとんど見ないので
関心がないから
Q2：加入前の期待
＊特定の番組
映画が見たかった
昔の映画を見たかった
スポーツが好き
HBO を見たかった
Disney を見たかった
MTV を見たかった
CNN を見たかった
経済ニュースを見たかった
特別な教育番組を見たかった
PBS を見たかった
＊多様な番組
普通の局にはない番組を一杯見たかった
番組の種類が増えるから
＊CM がない
コマーシャルが入らない
＊難視聴解消
鮮明な映像を得るため
ケーブルがないとテレビ電波を受信できない
＊集合住宅なのでケーブル以外に方法がない
＊見栄え
屋根のアンテナを取り外したかった
＊経済性
見たいものを見るのにケーブルが割安と思ったから
Prime Ticket sports を得るため
Q3—1：期待が満たされない理由
＊番組内容
有料チャンネルは同じ映画ばかりやっている
好きな番組が少ししかない
＊チャンネル編成
ファッションなど，見たいチャンネルがない
PBS などの局を落しているのは不満だ
ケーブル局が勝手に決めるのはおかしい
何も放送していないチャンネルが多い
＊料金
利用料金が高すぎる
衛星アンテナを買える費用になってきた
普通のチャンネルは無料であるべきだ
複数のテレビに同じ金額内でつなげたい
＊ケーブル事業者
特定の依頼をしても，局の対応が遅い
工事などでの局の対応が遅い
地域で独占状態にあるのは腹立たしい
＊技術
VCR での裏番組の録画がやっかい
＊テレビそのもの
テレビから得られる満足はさほど大きくない
Q4：TVチャンネルの増加について
＊賛成
チャンネルの多いのは好きだ
まだまだ不十分だ
＊条件付き賛成
番組の質による
子供番組を増やしてほしい
無料なら歓迎するが，有料なら今で十分
もっと改善できるはず
余分のチャンネルを細分化された受け手用に

Table 3（つづき）

＊多チャンネルより内容
　チャンネル数より，良い番組と内容の多様性
＊反対
　くだらない番組が一杯だ
　増えても，見るチャンネルはそう変わらない
　半分ぐらいのチャンネルは見なくてよいもの
　チャンネルが増えても見る時間に限界がある
　余分なチャンネルまで契約して，損をする
　これ以上増えても，何も益はないだろう
　もう増やさなくてよい，いまで十分だ
　チャンネル番号が覚えにくい
＊最初から，チャンネルの増加には関心がなかった

SQ6—2：ペイチャンネルのキャンセル理由

＊番組の反復
　いくつかの番組の繰り返しばかりだから
　他のペイチャンネルと内容が同じだったから
＊番組内容自体
　最新の映画がないので
　番組が面白くなかったから
　番組内容が途中から変わったので
＊経済性
　レンタルの映画ビデオの方がいいから
　無料サービス期間が終わったので
＊子供がもう大きくなって，必要でなくなった

Q7：ペイチャンネルの全体的感想

＊満足
　結構だ
　解約後あった方がよかったと思うこともある
　Disney は気に入っている。
＊番組内容に不満
　同じ番組の繰り返しが多すぎる
　コンスタントに良い番組を並べられない
　最新の映画が少なくなってきた
　映画がひどい
　プロモーションの時だけ良い映画をやる
　下品な番組が多すぎる
＊アクセスの不便
　見たいときに，見たい番組がない
　通常のテレビ番組表に出ていないので不便だ
　昼間より，夜に良い映画を流してほしい
　見たい番組の時間帯があわない
　子供には好ましくない内容を，普通の時間帯に放送するので困る
＊不経済
　家族の各々が好きなチャンネルを契約することになる
　金の無駄だ
　料金を下げるべきだ
　基本サービスだけで十分だ
　一カ月だけ無料とかの販促では不十分
＊オプションとしてあるのは良い
＊もう落ち目になってきている
＊がっかりだ

Q10：PAY—PER—VIEW の評価

＊肯定的
　あってよいオプションだ
　本当に必要な人達だけのもの
　スペシャルイベントの番組はよい
　Fight などの番組がよい
　ペイチャンネルよりはましだ
　最新の映画は見る価値がある
　家族で映画館へ行くよりも，安上がりだ
＊映画に不満
　注文の結果，面白くない映画に落胆した
　見たい映画は普通のチャンネルでも見られる
　やはり大スクーンで映画は観るに限る
＊アクセスの不満
　レンタルのビデオの方が便利だ
＊家族構成との関係
　夫と妻だけでは不要。子供がいれば違う
＊不経済
　料金が問題
　電話で注文するとき，料金が心配になる
　無駄だ
＊存在自体に反体
　そのアイデア自体が好きになれない
　基本チャンネルの中に入れるべきだ
＊関心がない

Q12：行政チャンネルの感想

＊特定番組を見る
　学校区の委員会の様子を見られてよい
　図書館の委員会を見る
　C-Span や市議会中継をまれに見る
　暴動のとき，地元の様子を知るために見た
　興味のあるときだけ見る
　事前に議論内容がわかっているときには見る
　ローカル政治ショーといった感じで，面白い
　よく議会に現れて陳情する人がおり，それを見るのが楽しい
　もしも持家ならば，もっと市の行政を知るために見る
　市議会中継が自分の市にもあれば見たい

Table 3（つづき）

＊地域に貢献
　地元への関心を深めるために良い手段だ
　open forum として役立っている
　会議中継は，議場へ行けない人に意義がある
　会議で頑張っている人たちを見て有難く思う
＊全体的肯定
　存在すること自体に価値がある
　好きだ
　見たときには面白く感じる
　新聞や雑誌よりは役立つ
＊否定的
　技術的な未熟さが目立つ
　退屈だ
　興味がない
　いつもそのチャンネルは飛ばす
　C-Spanの方をよく見る
＊議員や委員だけではなくて、傍聴している人達の反応も映してほしい
＊市の役人は時々ごまかす

Q14：市のテキスト番組の感想

＊肯定的
　I think it's great!
　私は好きだ，なかなかよい
　生活に欠かせない
　生活に役立つ情報が多い
　地元の情報を入手しやすい
　コミュニティにとって有益だ
　見ものがないとき地元のことを知るため見るないよりはある方がよい
＊否定的
　関心がない
　ほとんどが広告のように見える
＊バックの音楽を良く聞いている
＊たまたま目に止まって，少しだけ見るもの
＊少しスクロールが早すぎる

Q16：パブリックアクセス・チャンネルの感想

＊肯定的
　自分は好きだ
　あってよい場だ
　地元のイベントは見る
　面白い番組がよくある
　教養を身につけるのに役立つ
　子供がよく見ている
＊参加志望
　番組を作ったり，出演したことがある
　自分にも何か言いたいことがあれば，そこへ出てみたい
＊内容に不満
　自分の関心と合わない内容のときは，退屈だ
　NORRIS THEATER のものはひどい
　どうも慣れ親しめない
＊無関心
　関心がない
　何をやっているのか知らない
　時々見るが，as a joke
　限られた人達のためにあると感じる
＊技術に不満
　映像や音に問題が多すぎる

Q18：カリフォルニア・チャンネルの感想

＊肯定的
　是非見るべきだ
　関心が深まって役に立つ
＊見るが，内容には不満
　チャンネルが問題ではなく，議会にうんざり
　たまに見ても，議論内容がわかりにくい
＊無関心
　関心がない
　自分たちにはあまり重要ではない
　地元や国の問題ほどには関心が強くない
　あるのは良いが，自分はほとんど見ない
　見たと思うが，どれかわからない
＊もっと州に関心を持つべきだ
＊夫は見ているが，妻は見ない

Q：20：PENINSULA SHOWCASE の感想

＊肯定的
　電話帳を調べるよりは便利だ
　コミュニティには良い
＊特定内容は見る
　レストランの広告を見る
　不動産の広告を見る
＊役立たない
　広告の店は元から知っているので役立たない
　見ている人はほとんどいないだろう
　広告を出す事業者のためだけのもの
＊内容に不満
　ひどく安っぽい
　ひどく素人的だ
＊関心がない

Q21：印象的なアクセス番組

＊特定番組
　不動産紹介は役立つ
　市議会中継は面白い

Table 3（つづき）

パブリックアクセスが最も良い
地元住民が地元行事を撮影した番組は好き
スクロールのチャンネルが好きだ
3チャンネル
＊内容に不満
地元政治よりコミュニティを重視すべきだ
不十分な情報提供は，かえって混乱を深める
RPV 議会中継の音は最悪だ
全体的に退屈
すべての市の議会中継をするべきだ
番組の悪さはケーブル局の責任ではない
＊ここへ新しく転入してきた人達には有益だろう
＊各自の関心が異なるので，多数の人には届かない
＊全部が同様で，どれかを特別にあげられない
＊あまり見ない
＊興味がない

Q23：TELETHON のようなイベントについて
コミュニティの連帯に重要な役割を演じる
素人ばかりで作ったので，逆に楽しかった
もっと著名な人たちがいればよかったのに
ひどい番組だ

Q26：DIMENSION CABLE の発展に必要なもの
＊特定番組
子供番組を増やす
教育番組を増やす
after school program のような番組
成人向け語学講座などの教育教養番組
＊地域への取り組み
学校の現状などの，地元の問題を住民にもっと考えさせてほしい
税金や学校などの問題について，議論する場になってほしい
図書館や他のシステムともっと深く結び付くべきだ
必ずしもローカルでなくてもよい
局への要望を伝えやすくしてほしい
住民のニーズにもっと従うべきだ
住民をもっと取り込む番組作りやサービスが大事だ
＊技術指導
番組制作の講座など，住民に対するいろいろな指導に尽力してほしい
住民が番組づくりにもっと関わるべきだ
＊技術的改善
音も映像もひどい
プロの援助が必要だ
もっと多くのスタッフが必要だ
空きチャンネルは飛ばせるようにしてほしい
チャンネル数をもっと整理して充実させる
Palos Verdes 全部に敷設されること
＊競争
競争がないと駄目になってしまう
＊料金
他の土地より利用料金が高い
＊行政
行政がもっと尽力すべきだ
＊ケーブル会社がコミュニティで重視されるのはおかしい
＊固定した受け手だけを相手にしているようだ
＊いままでの調子を持続させればよい
＊ケーブルより新聞の方がコミュニティには重要だ
＊改善の余地は一杯ある

Q28—1：地域情報源＝ローカル・テレビ
ケーブルの地域番組，たとえば Ch 12，Ch 3
空中波のCh 7，Ch 4
Showcase

Q28—3：地域情報源＝新聞
Los Angeles Times, Daily Breeze, Palos Verdes News, Peninsula News, News Pilot, Beach Reporter, The E-Z Reader, News Digest, My Neighbors など

Q28—4：地域情報源＝雑誌
The Peninsula Weekly, The Star など

Q28—5：地域情報源＝その他
市のニュースレター
自分の家族
図書館に掲示される案内告知
口頭でのゴシップ
地元の商業会などへ直接尋ねる

Q30：ケーブル料金について
＊高すぎる
とにかく高すぎる
値上げばかりでは加入者が増えなくなるのに
値上げ分の目立った変化はない
20ドル以下なら結構
＊料金体系
リモコンとボックスの料金が高すぎる
ボックス料金は基本料金に含むべきだ
lifeline fee が設定されるべきだ
一度解約して再契約すると新規扱いになるのは疑問
各チャンネルごとに選択契約できれば良い

Table 3（つづき）

Pay-Per-View は無駄だ
＊料金の説明不十分
事前の説明もなしに，値上げした（フランチャイズ料金部分）
＊競争の必要
地域独占ではなしに，ケーブル会社どうしの競争が必要だ
＊テレビはただだ
テレビはすべて無料であるべきだ
＊納得
ケーブルだけのチャンネルを良く見るのだから，納得している
もう値上げしないなら，現在の額で納得する
自分は無料だから，何ともいえない
＊集合住宅にいるので選択できないが，自分なら基本サービスだけにする
＊年間に数回の無料キャンペーンで見るだけで十分
＊ケーブル以外の方法で視聴したい

Q31：ケーブルと地域

＊地元に密着を
コミュニティに密着するべきだ
地元のことを知りたければケーブルを見る，というように地元密着してほしい
いろいろなコミュニティ情報を提供するべき
もっと加入者への説明などが必要
一つの地域の中だけではなしに，より広い地域の間で相互に共有できれば良い
＊自治体に期待
サービスが不十分なときには，自治体はフランチャイズを取り消すべきだ
自治体ともっと深い関係を持つべきだ
衛星アンテナの設置を市が認めないのはおかしい
四つの市ごとに利害は異なる
＊ケーブルはビジネス
テレビ番組を伝送するビジネスにすぎない
ケーブルはビジネスで，コミュニティは人々を支えるもの。まったく対照的だ
テレビ番組を送信していれば良い
ケーブルが地元のために何かしているとは思わない
＊番組に工夫を
改善は，量より質で行うべきだ
子供が MTV を見すぎる
＊住民の問題
市議会中継などをもっと見るべきだ
＊いまよりもっと両者はうまくやって行けるはずだ
＊ケーブルの無かった当時の暮らしの方が良かった
＊居住期間が少しで，よくわからない
＊ケーブルと地域がどう関係あるのか，わからない

Q33：Palos Verdes について

＊好き
最高の場所だ
他へ転居したくない
安全な所
学校がよい
空気がよい
住民の質がよい
海のそばだから好き
警察や消防がしっかりしている
コミュニティの実感がする
大都市にあるのに，田舎の雰囲気が一杯だ
＊問題点
以前と比べて住みやすくなくなってきた
以前より騒々しくなってきた
市や学校などの財政面で苦しくなっている
Too far away from things
交通が不便
値段が高すぎる
映画館がほしい
Mall の家賃が高すぎて，店舗数が増えない
住民は社交的でない
＊これ以上変化しないでほしい
＊居住期間が少しなので，わからない

3.3 地域住民対象の本調査（電話調査）

3.3.1 調査手続き

既に2.2.2で述べた理由から，Palos Verdes 全域の住民電話リストを保有する調査会社にサンプリングと実査を委託し，当方の作成した質問票を用いて93年4月上旬に住民対象の電話調査を実施した。Dimension Cable はもちろん加入者リストを保有しているのだが，社外への提供は断じて禁止されているために，ケーブルへの加入非加入の区別はサンプリング時には不可能である。マネージャー氏の話では，仮にリストが外部に漏れると，おそらく同氏の地位だけでなく，Dimension Cable 自体の Palos Verdes での業務も困難になるほど，加入者のプライバシー保護は最大の義務であるという。したがって，今回の調査では，あらかじめ有効回答票数の構成を設定しておき，調査会社保有の電話リスト（ほぼ全戸）からコンピュータによるランダムサンプリングを行った。この種の抽出方法は米国ではポピュラーなものである。

獲得すべき標本の構成は，居住市別には4市に各100票，その中での男女比をできるだけ等しくし，ケーブル加入者と非加入者の比は3：1とする。年齢面では，ハイティーンは含むが，それより低年齢のものはその両親に回答を求める。電話がつながったときに不在である場合には時刻や日を変えて再度電話すること。同様に，在宅していても何らかの都合でその場での応答が困難な場合には，先方の希望する時刻曜日にかけなおす。このような指示を調査会社に徹底した。回答のほとんどは多肢選択式であり，インタビューアが該当番号にチェックする方式とした。

実査は筆者の離米後に行うことになったため，念のために，調査会社の作業が当方の指示どおり実行されているかどうか確認する業務を，別のコンサルティング会社に委託契約しておいた。回答票は同4月中旬に米国から届けられた。

3.3.2 本調査の結果概要

3.3.2.1 回答者の特徴

本調査で得た有効回答者数は合計404で，ケーブルテレビへの加入者は内300。居住地別では各市とも約100名，男女比はほぼ50：50である。年齢構成では50歳以上が全体の約50％と多いのに対して，［25—34歳］が8％と少ない。国勢調査データと比較すると，50歳以上者は回答者に5％強多いことになった。現住居での居住年数の長い回答者が多く，20年以上が43％，対して10年未満は26％である。職業では，有職者34％，定年退職者25％，専業主婦17％が多い（**Table 4**）。

Table 4 電話調査の回答者構成

	全体		ケーブル加入			
			加入者		非加入者	
	N	%	n	%	n	%
〔居住市〕						
RPV	104	25.74	77	25.67	27	26.21
PVE	102	25.25	77	25.67	24	23.30
RHE	101	25.00	74	24.67	27	26.21
RH	97	24.01	72	24.00	25	24.27
計	404	100.00	300	100.00	103	100.00
〔F1.年齢〕						
18-24	72	18.05	52	17.57	20	19.61
25-34	34	8.52	28	9.46	6	5.88
35-49	88	22.06	62	20.95	25	24.51
50-64	115	28.82	91	30.74	24	23.53
65以上	90	22.56	63	21.28	27	26.47
計	399	100.00	296	100.00	102	100.00
〔F2.居住年〕						
1年未満	16	4.03	12	4.08	4	3.92
1-2 年	19	4.79	13	4.42	6	5.88
3-4 年	26	6.55	18	6.12	8	7.84
5-9 年	43	10.83	36	12.24	7	6.86
10-19年	120	30.23	89	30.27	30	29.41
20年以上	173	43.58	126	42.86	47	46.08
計	397	100.00	294	100.00	102	100.00
〔F3.職業〕						
Homemaker	69	17.38	58	19.73	10	9.80
Employed	136	34.26	96	32.65	40	39.22
Retired	99	24.94	71	24.15	28	27.45
Unemployed	12	3.02	8	2.72	4	3.92
Student	53	13.35	40	13.61	13	12.75
Other	28	7.05	21	7.14	7	6.86
計	397	100.00	294	100.00	102	100.00
〔F4.性別〕						
女性	208	51.49	160	53.33	47	45.63
男性	196	48.51	140	46.67	56	54.37
計	404	100.00	300	100.00	103	100.00

3.3.2.2 テレビ視聴の一般的特徴

回答者がよく見るテレビ番組のジャンル（Q1）は，「ニュース／ジャーナリズム」40.6％と「エンターテイメント」34.9％が多いが，ニュース／ジャーナリズム以外では性差も見られ，男

性がエンターテインメントを非常によく見る（40.8）のに対して，女性は教育（18.8）と文化（11.5）を男性より5％以上多くあげた。また，ケーブルへの加入／非加入者の違いも見られ，エンターテインメントでは加入者（38.0）が，対してニュース／ジャーナリズムでは非加入者（50.5）がいずれも他方より10％以上多い。非加入者の47.6％は「最も見ないテレビ番組」（Q2）でもエンターテインメントをあげる。ちなみに，加入者の「最も見ないテレビ番組」で多いのは文化（33.0）だが，エンターテインメントも29.0％と次点である。

ケーブルへの加入／非加入の相違を次に「最も好きなテレビ局」（Q3）と「最も嫌いなテレビ局」（Q4）で見ると，ケーブルチャンネルのない非加入者ではPBS（44.7）と3大ネットワーク局（41.7）が好まれるのに対して，加入者ではPBSが26.0％，3大ネットは28.3％と大きく減り，その分がベーシックケーブル（35.3）に流れた。一方，嫌いなテレビ局では，非加入者では独立ローカル局（44.7）とPBS（22.3）が多いが，加入者ではコミュニティ・チャンネル（アクセス番組）の34.7％が圧倒的に多くなっている。

3.3.2.3 テレビチャンネル数の増加とケーブル加入について

Q6では，テレビのチャンネル数について質問した。ケーブル加入者の過半数が肯定した意見は，「チャンネル数よりも番組の質の方が重要」91.0％，「現在のチャンネル数で自分は十分」82.7％，「一般にテレビチャンネル数の増加は良い」68.7％，「ケーブルには粗末な番組が多過ぎる」62.0％であった。「ケーブル料金は深刻な問題だ」には賛否二分した。「使えるチャンネル数の増加は自分のテレビ視聴に影響していない」と考える人は40.0％で，影響したとする人より10％少ない。また，「もっと多様な番組が必要」という人（45.3）はそう考えない人（52.3）よりも弱干少なかった。

同じ意見に対する非加入者の反応は加入者と類似するが，全体に「わからない」という回答が多い中で顕著なのは，「チャンネル数よりも番組の質の方が重要」83.5％と「現在のチャンネル数で自分は十分」74.8％の二つである。しかし「もっと多様な番組が必要」には43.7％が肯定し，否定の33.0％を上回った。「ケーブル料金は深刻な問題だ」という人（36.9）はそう思わない人（19.4）の二倍近くいる。

これらの回答から，現在のチャンネル数への満足度ではケーブル加入者と非加入者は大差なく，いずれも十分だとしている。両者ともに「量より質」を重視し，加入者ではケーブル番組の粗末さへの不満，非加入者でも番組の一層の多様性を求める傾向は見られるが，いずれでもケーブル料金を問題視する人が相当数いることに留意すべきである。ちなみに，別の質問（Q9）でケーブルの将来発展に必要な課題を聞いたが，「チャンネル数の増加」をあげた人は加入／非加入者ともに25％前後にとどまり，視聴可能なチャンネル数と視聴満足度には強い結び付きは見られないようである。

3.3.2.4 ケーブル加入形態／プレミアム・チャンネルについて

ケーブル加入者が契約している月極めサービスを分類すると(SQ10—1)，基本の Basic Cable Service 25.0%，それに CNBC, Family, Weather などのチャンネルが加わる Dimension Service 9.7%，さらに CNN, ESPN, USA などが揃った Preferred Dimension が65.3%である。これらとは別にチャンネルごとに月々契約するプレミアム・チャンネルでは (SQ10—2)，契約無しが65.7%に昇るが，HBO (21.7) と Showtime (18.0) の契約はやや多い。

このプレミアム・チャンネルに対して，ケーブル加入者全体の評価を求めた（Q 7)。「いつでも好きな映画を見ることができる」と肯定する人は 23.7 %と少ないが，「深夜より以前に子供に適さない内容の番組がある」53.0%と「再放送が多過ぎる」46.7%という抑判的意見が目立つ。また「映画以外の種類の番組を見たい」も 41.0 %と多いが，「金の無駄だ」という無用論には賛否が拮抗しており (37.0：32.0)，全体として「あってよいオプションだ」には 54.7 %が賛成している。なお，Pay-Per-View サービスを使って「月に少なくとも一回はペイ番組のオーダーをした」人は二割にも満たなかった (13.7)。

また，現在のケーブル加入者と過去にケーブル加入していた人を合わせると，全回答者の約80%に達するが，この中でプレミアム・チャンネルの契約経験者は60%にもなる。プレミアム経験者の内68%にはプレミアムの解約経験があった。Q16では，プレミアムに加入した経験のない人と解約経験者に対して，その未契約あるいは解約の理由を問うた。結果は「レンタルビデオの利用で満足だから」 61.0 %，「番組内容が面白くないから」58.7 %，「高額過ぎるから」57.3 %，「同一番組の再放送が多過ぎるから」47.4%の順に多かったが，予備調査ではしばしば耳にした「家に子供や若者がいないので」という理由は15.6%に過ぎなかった。

プレミアム・チャンネルについては以上のように厳しい評価が顕著であり，番組内容と利用料金の両面に不満は向っている。しかし，「好む人がいるなら楽しめばよい」といった純粋なオプションとしての存在理由は認められているといえよう。

3.3.2.5 コミュニテイ・チャンネルについて

Dimension Cable で流している各種のアクセス番組を，住民はどの程度視聴しているのであろうか (Q11)。各番組について 4 点尺度（1＝よく見る　2＝ときどき見る　3＝めったに見ない　4＝まったく見ない）で視聴頻度を問うた。**Fig. 4** が加入者の回答から求めた加重平均値である。

第一に，各番組において「まったく見ない」という回答が40から60%を占めており，地域のアクセス番組の視聴者は非常に少ないといえる。なかでも，地元コンサート，地元不動産案内，地元レストランやショッピング案内，各種団体による案内情報などの番組視聴者はきわめてわずかである。それに比べて，市議会中継と地域の歴史や自然紹介番組の視聴者はやや多く，また，市・学校・図書館などの案内情報も他よりは見る人が多い。したがって，三つのアクセスチャンネ

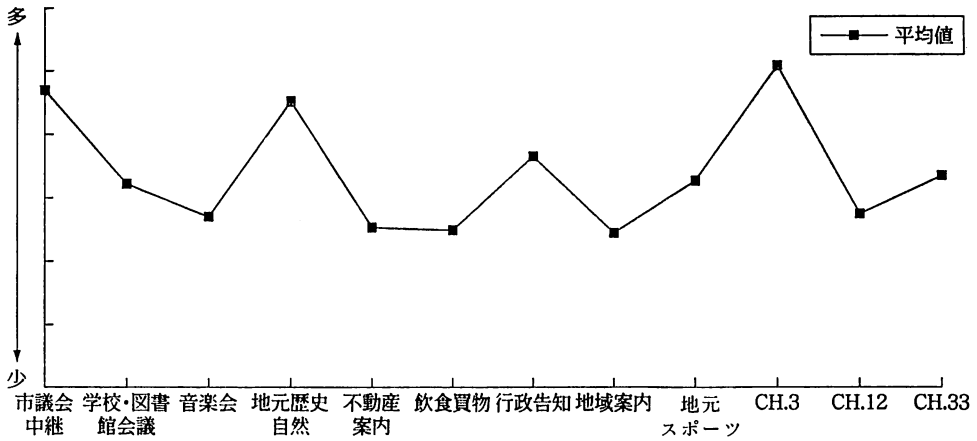

Fig. 4　Q11 アクセス番組の視聴頻度

ルを総合して比較した場合にも，行政チャンネル（Ch3）の視聴者が最も多く，各種の商業的な案内情報を中心にした Ch12 は最も見られていない。商業的な意図がなくて娯楽的ではない番組とか，純粋に行政告知のような地域情報には加入者は接触するといえようか。

つぎに，アクセス番組に対する加入者の評価を問うたQ８の結果を見たい（**Fig. 5**）。

まず市議会中継については，テレビで視聴できることを過半数の人が有用としている(1)。実際の効果は別として，行政チャンネルはあるべきだとする声も70％に近い(2)。行政告知は文字放送で頻繁に流されているが，これを地域情報の重要な源泉だと認める人は否定する人を上回っており(4)，総じて，行政チャンネルの評価は高いといえよう。しかし，地域広告については，それを便利だと肯定する数値は低く，「わからない」人が過半数に昇ることを考えると，住民の関心は相当に低いといえる(11)。

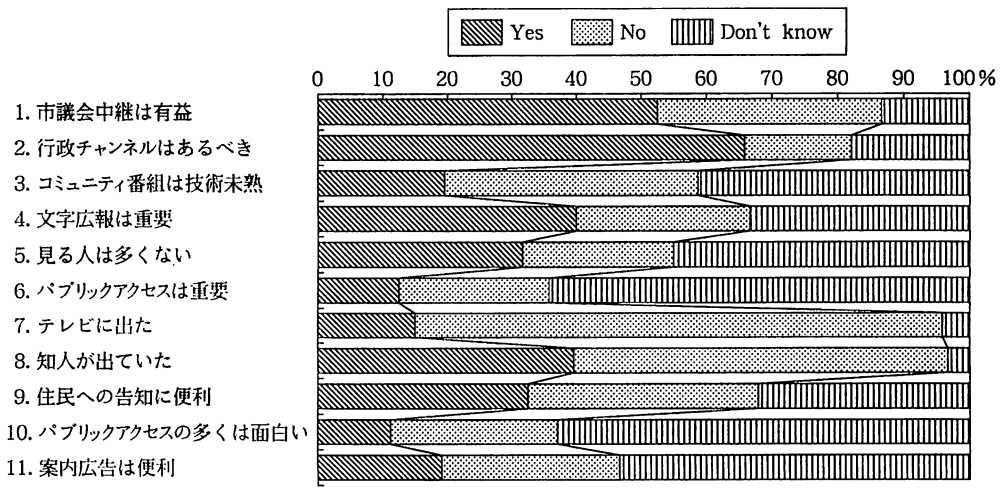

Fig. 5　Q８ コミュニティ番組の評価

同様のことはパブリック・アクセス用の Ch33 にもいえ，興味深い番組が多いとする人よりも否定する人の方が上回り，しかも「わからない」という回答が60％以上あった(10)。その地域的役割についても回答の分布は「わからない」が突出しており(6)，パブリック・アクセスチャンネルへの関心はきわめて低いと考えられる。

これらアクセスチャンネルへの住民の参加程度は，自身で番組に出演したり何らかの役割を演じた人が10数％に過ぎず，広範な利用状況とはとてもいえない(7)。しかし，自分の親戚や友人がテレビに登場したのを見た経験は40％以上の人にあり(8)，頻繁ではないとしても，地域住民に開かれたチャンネルの 現実的な意義を否定できはしない。「街の人達に伝えたいことがあるとき，アクセスチャンネルは有効な手段だ」という意見には賛否二分しており(9)，肯定と否定のどちらに注目するかで意味は大きく異なるが，現実にはあまり利用されていないとはいえ，自由に使えるチャンネルが存在することの意義はやはり認めておくべきであろう。事前のインタビューで顕著だった「画像や音声など技術的問題」を指摘する人は20％程度見られ，視聴頻度の少なさを考慮するならば，視聴するときにはかなりの割合で見づらかったり聞き苦しかったりするものと想像できる(3)。

アクセスチャンネルが地域情報源としてどの程度利用されているかについて，別の質問では直接回答を求めている（Ｑ５，**Fig. 6**）。Ｑ８とＱ11の回答から容易に想像できることであるが，ケーブル加入者と非加入者のメディア利用にはまったくといえるほどに差がない。「Palos Verdes で起こっている出来事についての情報源」を問うたのであるから，ケーブル加入者のテレビ選択率が若干でも上回るものと調査前には予想していた。結果は，両グループともに新聞紙を68％の人が利用するとしており，テレビに関しては全体では15％弱，しかも加入者の方が非加入者よりもテレビ利用率が低くなっている。アクセスチャンネルが地域情報源として有効に活用されていないことは明らかであろう。

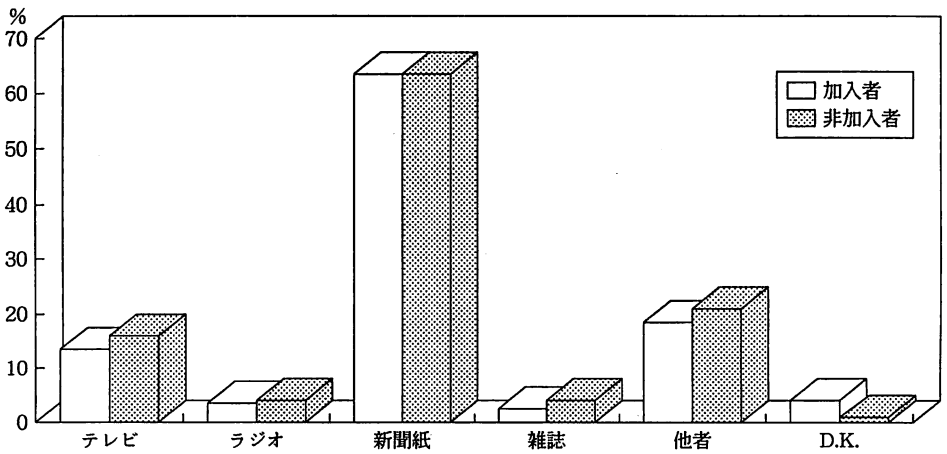

Fig. 6　Ｑ５ 地域情報源（複式回答）

3.3.2.6 ケーブル加入理由

そもそも，ケーブルテレビに加入する理由，加入の目的はどこに主眼をおいているのであろうか。Q12の結果を見ると（**Fig. 7**），70%近くの人たちが「ケーブルなしにはテレビ電波を受信できない」という難視聴解消の目的をあげた。同時に，それ以上の割合で「多様なテレビ番組を見る」と「地上放送以外のケーブル番組を見る」とする，オプションとしての番組増加を志向した理由が上がっている。市別にクロス集計した結果では，難視聴解消を他の市よりも10%かそれ以上多くあげたRH市居住者は，他市よりテレビ番組多様化の回答が少ない。しかし，「地上放送以外のケーブル番組を見る」という積極的なケーブル番組志向では，居住市間の一貫した差は見られないのである。したがって，難視聴解消と番組多様化の理由はある程度の反比例関係にあっても，ケーブル独自の番組を見る要求はそれらと独立した加入理由として考えられよう。

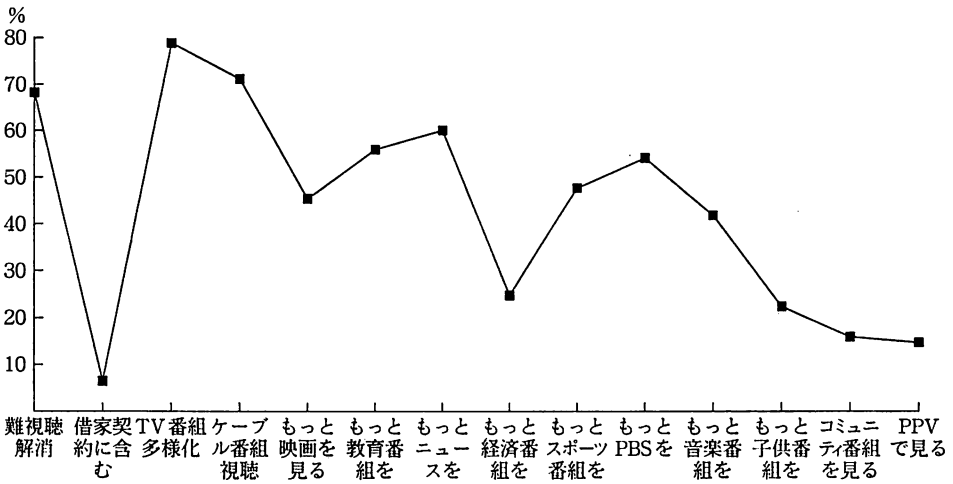

Fig. 7 Q12 ケーブル加入理由（複式回答）

つぎに同じQ12で，ケーブル加入で増加させたかった番組ジャンルの回答によれば，ニュース，教育番組，PBS，映画，そして音楽の順で60%から40数%の選択があった。一般に高人気のケーブルチャンネルを思い浮かばせる数字であるが，教育番組とPBSへの高い要求は予想できなかったものである。

経済番組と子供番組の選択率が低い点は，やはり株為替投資や家族構成などに起因する個人的なニーズの差異から生じたものであろうが，Pay-Per-Viewで楽しむ目的で加入した人が15%程度である事実は，月々単位の支払い契約で済む通常のケーブル番組では満足しない層が相当少ない事実を示している。また，各種のアクセス番組を流すコミュニティチャンネルを理由にあげたのも，Pay-Per-Viewとほぼ同一という少数である。これらから，広域対象であってチャンネルを合わせるだけで済むという，在来型のテレビ接触から一歩踏み出したケーブル独自の可能性は，ごくわずかしか認識されていないのである。

3.3.2.7 ケーブル加入の満足・不満

このような目的で実際にケーブル加入した人たちの，現時点での全体的な満足度はどの程度であろうか。Q13では，3を中立点とする5点尺度上での回答を求めた。

過去に加入していてその後解約したグループは，当然ながら，現在も加入しているグループよりもネガティブな評価は多い。現加入者の回答についていえば（**Fig. 8**），ネガティブな評価は全体の15%にも満たず，半数はポジティブ，そして40%弱の人が中立的立場である。したがって，平均すると，加入者のケーブルに対する評価は「やや満足」といったところであろう。

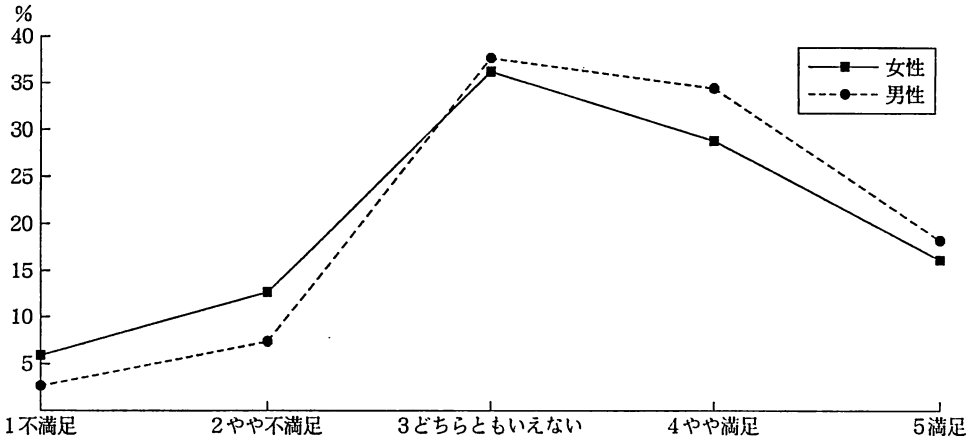

Fig. 8 Q13 ケーブル加入の満足度

では，5点尺度上で最高値にマークしなかった人々は，どのような点に不十分さを感じているのだろうか。SQ13—1の回答によれば（**Fig. 9**），実質回答者の内の60%以上が「番組内容」と

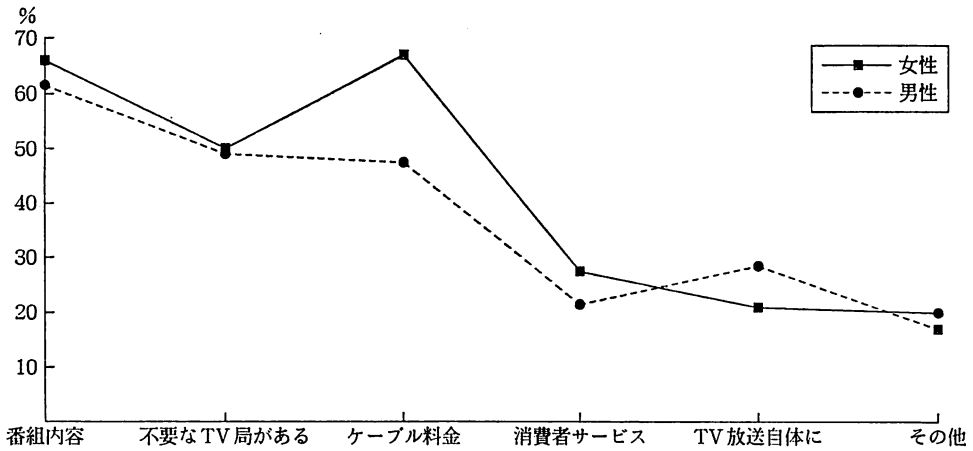

Fig. 9 SQ13-1 ケーブル加入の不満足（複式回答）

「ケーブル料金」を不満理由にあげている。「不要なTV局が含まれている」にも50%が賛同しており，多チャンネル化の結果，自分の要望しない番組やチャンネルまで受信してしまうことへの不満が強く，余計なものまで含んだ月々のケーブル料金という認識があるように思われる。ケーブル料金に関しては，女性の方が男性より不満が強く，これは支払いで毎月のパーソナルチェックを切る役割を女性の方が多く引き受けているために，料金への評価が厳しくなっているのではないか。同様に，番組内容と消費者サービスの理由でも，男性より女性の方が若干選択率の高い傾向が見られる。逆に，「テレビなんてこんなものだ」という意味での「TV放送自体の性質ゆえに」を理由としたのは，男性の方が多かった。

これらと関連して，今回の調査では約100名が現非加入者であるが，その内22%は過去に Dimension Cable に加入した経験を持ち，12%には他のケーブル会社への加入経験があった。したがって，全体の60%以上には，現在も過去にもケーブル加入の経験はない（SQ10—4）。現在はケーブルに加入していないこれらのグループに，その非加入の理由を SQ10—3で問うている（**Fig. 10**）。

結果によると，「加入したくてもケーブルがまだ敷設されていない」から非加入だとする人は全体の5%，また，「通信衛星の受信装置を持っている」のでケーブルが不要という人も9%程度である。もっとも明確な非加入理由は，「通常の地上放送で十分だ」(72.8) と，「いつもそんなにテレビは見ないので」(62.1) の二つである。テレビ放送自体にあまり興味が強くはなく，在来の放送で十分だからケーブルには加入しないのである。既述のQ6でも「テレビは量より質だ」という意見が非加入者に強かった点と符合する。ついで多かった非加入の理由は，「レンタルビデオを利用するので」(53.4) と「ケーブルの加入料と利用料は高額すぎるから」(43.7) であった。

これら四つの非加入理由から想定できるのは，ケーブルに加入していない人たちは，加入でき

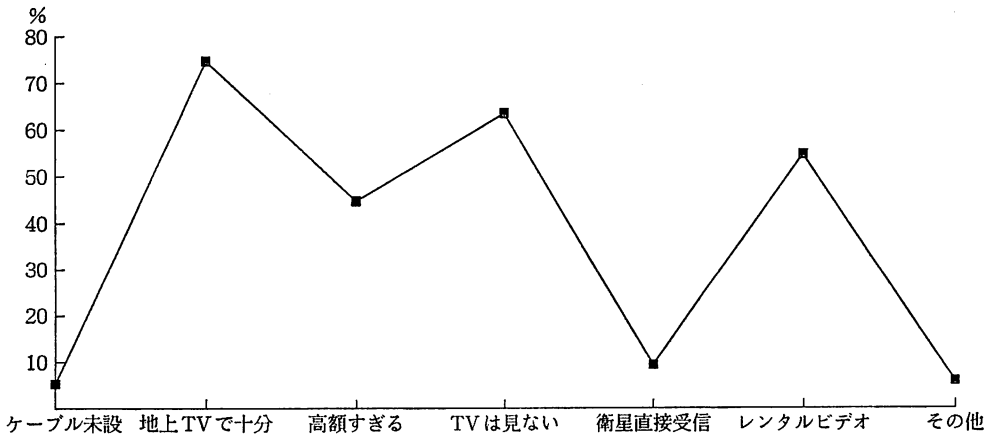

Fig. 10 SQ10-3 ケーブル非加入理由（複式回答）

る施設がないから加入していないのではなく，在来のテレビ放送でそれなりの満足をしており，必要なときには，映画などのソフトをレンタルショップで借りて見る方が割安だと考えているようである。Q6であったように，加入者も非加入者も，いずれも現在利用できるテレビチャンネル数には等しく満足しているが，両者を区別するのは，毎日のテレビ視聴頻度とかその背後にあるテレビそのものへの期待といった要因なのではないか。

さらには，今回の調査では家計状況をいっさい問わなかったので推論にすぎないが，「ケーブルは高額すぎる」という理由と所得との関連性を示唆するデータもあった。調査対象に選定した4市はすべていわゆる優良地区であるが，なかでも，RH 市と PVE 市は高額所得者の多い地域として有名である。SQ10—3の回答を市別に集計した数字を見ると，「ケーブルは高額すぎる」の選択率の少なかった順に市を並べれば，RH (32%)，PVE (38%)，RPV (45%)，RHE (60%) となる。テレビへの態度とは別に，家計に関わる要因とケーブル加入の相関性について，今後さらに詳細な調査分析を行う必要があろう。

3.3.2.8 ケーブルの今後について

回答者全員に対して，「Palos Verdes でケーブルテレビサービスが適切に発展するには，何が必要か」を問うた（Q9，**Fig. 11**)。明確な回答としては，「チャンネル数を増やす」ことを求める人は少ないが，「教育・文化番組を増やす」「コミュニティについて市民が考えるためのフォーラムとして役立てる」「パブリック・アクセス番組の制作を援助する」という，現実にはあまり利用されていないはずのエンターテインメント機能以外の役割，あるいは地域メディア的側面が広く期待されている。「ケーブルは地元新聞以上に有効にはなれない」という意見にも，肯定より否定する人の方が多く，地域貢献への期待も無視できないようである。しかし，「RH と

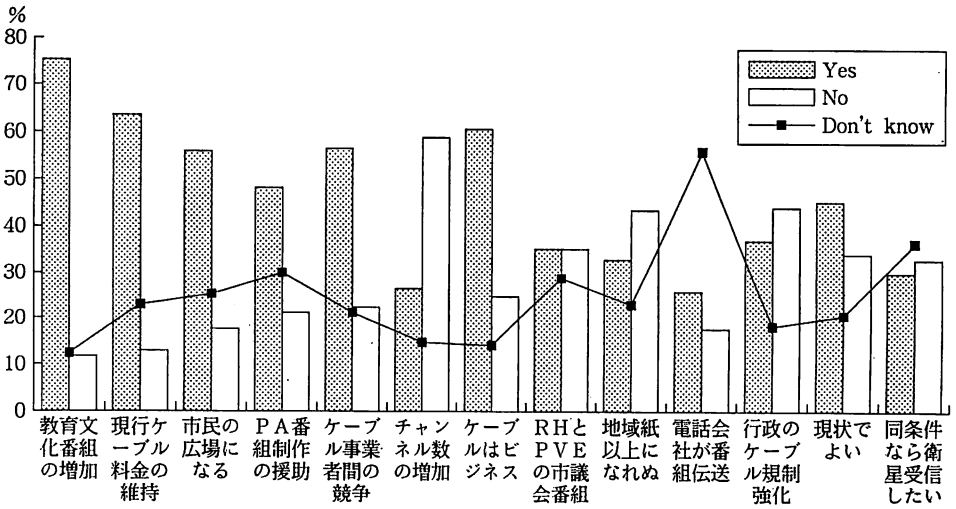

Fig. 11 Q9 地元でのケーブル発展に必要なもの

PVE の市議会番組を追加する」には意見は分散しており，しかも RH と PVE の住民と他の二市住民の間に差は見られない点からすると，市当局による行政アクセスの活発化を求めているとはいえない。

「現行ケーブル料金の維持に努める」には，60%以上の賛成があった。これらの将来的課題に迫るために住民が期待するのは，「行政による一層のケーブル規制」ではなく，「ケーブルはビジネスにすぎない」のであるから，「他のケーブル事業者を導入して競争させる」ことである。米国では電話事業者の手によるケーブル番組などのビデオ伝送を認める方向にあるが，この件についてはまだ一般の理解は不十分なようで，「わからない」とする回答がもっとも多い。同様に，「同一のチャンネル数や料金で直接受信の衛星放送が始まるならケーブルよりも衛星アンテナで見たい」にも曖昧な回答しか得られなかった。加入時にテレビ番組の多様化を志向する人は多かったが，そのための手段としてケーブルに代替するものを，せいぜいレンタルビデオ以外に積極的には見出してはいないといえないか。

このような将来への要望は，しかしながら，あまり早急な対応を志向しているわけではない。「現状維持で結構」には肯定者の方が否定を10%程度上回っており，地元ケーブル事業者の運用努力をある程度認めているものと思える。既述のQ13回答で，ケーブル加入についての不満足を示す数値の少なかった点と一致する。「現在までの努力に加えて，上記の対策を講じることが望ましい」というのが，全体的に見た住民の展望であろう。

4.0 考察と展望

4.1 住民のケーブル利用態度：まとめ

今回の調査から判明した住民のケーブル利用態度は，以下の諸点に集約できよう。

(1) ケーブル加入は，主としてテレビ難視聴の解消を目的とするが，視聴できる番組の多様化，そして衛星経由のケーブル番組の受信も主要な加入目的である。

(2) エンターテインメント系の番組視聴がケーブル加入者の関心対象であると思われるが，教育番組や PBS 局複数受信もケーブル加入時の目的として多く上がっている点は，調査前には予想できなかったことである。

(3) しかしケーブルへの加入者と非加入者を比較すると，加入者がエンターテインメントをより好むのに対して，非加入者はニュース／ジャーナリズム系番組を好む傾向がある。

(4) ケーブルへの加入非加入に関わらず，現在視聴できるチャンネル数への満足度は非常に高い。しかし，番組の一層の多様化を求めるニーズは非加入者の方が高いが，ケーブル料金への不満も非加入者に強いため，番組多様化のニーズはこの層をケーブル加入へと導かなかったものと考えられる。

(5) ケーブルに加入しない層の特徴は，ケーブル料金へのネガティブな態度とあわせて，テレビ放送に対する全般的な関心の低さにも見出せる。また，レンタルビデオを利用することで，ケーブル加入に代替させている傾向も明白である。

(6) プレミアム・チャンネルに関しては，料金設定の高額さに加え，同一番組の反復の過多や番組内容に不満は顕著である。しかし，Pay-Per-View 同様，オプションとしての存在価値は認められている。

(7) アクセスチャンネルについては，全体に関心は低く，その存在を知らない人，あるいは嫌悪感さえ抱く人も少なくない。さらに詳細な分析が必要であるが，関心の比較的強い特定の層はいるようである。

(8) アクセスチャンネルの有効性という点では，地域情報源としてアクセスチャンネルが現実に役立っている様子は見られない。

(9) 実際の有効性は別として，3種類のアクセスチャンネルを比較した場合，行政の議会中継や公報情報の視聴者，およびそれらを有用と認める人は多いが，商業的な案内情報に対してはネガティブな態度が著しい。パブリック・アクセスへの関心もかなり低い。

(10) 有効性や現実の視聴頻度に見られる厳しい数字にもかかわらず，事前の街頭インタビューで突っ込んだ質問を行ったところ，パブリック・アクセス番組にはひどいものも多いが，存在することこそ重要であるといった認識は確認できる。

4.2 考　察

4.2.1 自治体とケーブル

以上のような調査結果にもとづいて，少し考察を加えてみたい。

米国のケーブル規制は，冒頭でも記したとおり，1972年の FCC 規則で PEG 用アクセスチャンネルの運用が義務づけられたものの，その後は他の電気通信規則同様，猛速で緩和されてきている。その結果，ケーブル事業者がフランチャイズを得た地域社会に貢献する可能性はかなり小さくなってきたと考えられる。それでも，今回調査対象地域に選定した Palos Verdes のように，行政，教育，公衆向けアクセスチャンネルの運用は今日も一般的である。自治体が事業者に対して一方的に強要することはできなくなっても，事業者から見て採算のとれる範囲内の要望であれば，ケーブルによる地域的貢献について事業者は今や当然のようにそれを契約に盛り込むのである。Dimension Cable のケースでは，88年頃からスタジオ設置や市議会中継などのアクセス番組充実が始まるのだが，オペレータ事業の採算性向上につれて，自治体との契約交渉にケーブル事業者の方が寛大になってきたということであろう。

ケーブルの地域的貢献に関する問題は，規制緩和の中にあって，自治体の権限が縮小してしまったことよりも，むしろ，ケーブルの利用価値に対する自治体側の認識の不十分さにあるのでは

ないか。今回のインタビューに答えて，現在まで市議会中継などを事業者に要求したことのない自治体首長やケーブル担当者が，「ケーブルはビジネスにすぎない。ケーブルと自治体とか地域社会の関わりについて，なぜ君が質問するのかわからない」と，当方が逆に質問されて驚いたものである。彼らにすれば，関心のある市民は市議会ホールへ来ればよいのであり，それこそが市民の義務であり権利であるのかもしれない。また，そのような自治体においては，尊重すべき最低の要件は，プライバシーであるという。したがって，市民は仕事を終え，自宅に帰ってくつろぎ，家族との団らんを楽しむのであるから，家庭に自治体政治を否応なしに映像で持ち込むことに対して抵抗感があるらしい。

この辺りの感覚については，各自治体の性格や成り立ちの違いなどを十分に考慮しなければならない。たとえば，今回調査した Palos Verdesの4市では，RPV と RHE 市は他の2市より人口が多く，ビジネス開発もある程度重要課題としている。一方の RH 市と PVE 市は，歴史的にきわめて高所得者が多く，ビジネスを最小限に留めて，ぎりぎりの市財政で行政に当ってきた。むしろ，それを誇りにしているのである。その結果，後者はケーブル事業者の誘いにもかかわらず，市議会中継などの積極的なアクセスチャンネル利用をしないまま今日に至っているのである。もちろん，西海岸で最大の大都市，LA 市においては，その広範な土地に住む大人口に議会運営の実態を周知するためにも，ケーブルでの議会中継は今や重要な公報メディアとなっている。

4.2.2 アクセス番組の制作体制

他方，市民がアクセス番組にほとんど関心をもたない理由の一つは，個々の番組の質が非常に低い点にある。比較的見る人のいる議会中継にしても，RPV 市の場合，カメラマンらはまったくのボランティア市民であり，議員や陳情者らの動きを的確に捉えきれていない。2台あるカメラの切り替えも遅れ気味であり，やはりボランティアで協力している市民（映像関係の技師）の技術不足による。マイクの性能もかなり低い上に，議員らがマイクから離れすぎて話すことも多いなど，やはり中継に必要なディレクターの問題もある。

しかし，Dimension Cable が有償でプロデュースしている RHE 市の議会中継も，ケーブル事業者はその品質を誇っていたが，お世辞にも興味をそそるような代物ではない。映像に動きがなく，単調で退屈することが多かった。画質や音質も，通常のテレビ番組とは比較できないほどの低レベルである。ということは，市民に違和感なく視聴してもらうには，最低限度の技術力を備え，なおかつ登場する議員にもテレビにふさわしいプレゼンテーションの技巧が必要となる。Palos Verdes ほどの地元愛着心の異例に高い地域でさえこうであるならば，一体，行政アクセスチャンネルが順調に機能する地域とはどんな条件の整ったところなのであろうか。

技術力の不足は，ある程度，番組テーマの魅力でカバーできることもある。Palos Verdes は非常に美しい海岸線と丘陵をもった地域であり，自然保護に対する市民の関心もきわめて高い。

調査データにもあったように，地元の歴史や自然に関するアクセス番組への視聴頻度は比較的高い。地元新聞や雑誌にも頻繁に歴史と自然は記事にとりあげられており，その意味でも，映像や音声が少々悪かったり，出演者の動作が不慣れであっても，見る側の興味が強ければやはり視聴するものである。パブリック・アクセスチャンネルで放送される番組は，文字通り千差万別のテーマと品質であるので，安定した視聴量は期待できないが，地元に深く関わる問題であるかぎり，何らかの地元世論の啓蒙には役立つものと思える。

アクセスチャンネルのもう一つの問題は，地元や近郊のビジネス事業者による案内告知がほとんど見られていないことである。筆者のように1年足らずの居住者にとっては，それなりに店名や所在がわかって便利であったが，臨時のバーゲンセールでさえ，一般住民にはいわずもがなの情報であるらしい。地域広告メディアとしてケーブルを活用するのは，あまり得策ではなさそうである。

一方で固定利用者がいたのは，自治体や図書館などによる文字放送である。不慣れな者には少し動きが早すぎるように思えたが，キャラクタージェネレータで作られた文字情報を画面上にスクロールさせて次々と見せる方式であり，わが国の文字多重放送やキャプテンの番組とよく似ていた。これをうまく使っている人にとっては，たいへん便利な広報メディアとして好評であったが，やはり無関心層には見向きもされない。文字番組の制作は外部プロダクション（オーナーが地元市民）に有償で委託されているが，筆者の見たところでは，文字が小さすぎたり色使いが単調など，技術的に改善すべき問題はここでも少なくない。

4.2.3 住民への啓蒙の必要

いずれにせよ，当該ケーブル事業者が内容に立ち入るなどの編集権をもたないアクセスチャンネルであるので，多くの住民の関心をかち取るには相当な困難がある。Dimension Cable の場合には，住民用にアクセスチャンネルの意義，希望する番組のプロデュース方法，さらには技術養成講座開催などの案内パンフレットを準備している。また，プロデュース希望者には助成制度も用意されているが，これはフランチャイズ契約書に基づき，RPV 市と RHE 市の住民に対象者を限定している。PVE 市と RH 市は，議会中継だけでなく，住民の意志表明の機会をも軽視しているのであるから，個人の表現の自由に積極的に貢献するという認識が自治体には求められるべきであろう。

このようなパブリック・アクセス活用のためのケーブル事業者による準備にも関わらず，実際に技術指導を受ける住民の数は非常に少ない。なにしろパブリック・アクセス担当のマネージャーは一人しか置かれていないために，整理を待つ書類がキャビネットや机に山積といった状況で，統計的データの入手は困難であった。そのマネージャーはたいへん熱心で誠意のある人物であるが，その人物をしてこのような状況にあり，日々の繁雑な業務に追われっぱなしといったところである。そのマネージャーが提供してくれた1991年の資料によれば，同年4月一ケ月間の個

人技術指導時間は，合計221時間の可能な業務時間の内の5％を実際にあてただけである。指導を受けた人数は延8名だけであった。クラス単位で受講するパブリック・アクセス指導講座も別にあり，こちらの方は延8クラス6名が受講した。同様に，翌5月の資料では，個人指導は可能な239時間の8％が実行され，延7名を指導したが，講座の方は一回も開かれなかった。

アクセス番組のプロデューサーを集めた会議も定期的に開催されているが，プロデュースする人はかなり固定している観もあり，住民に向けた一層の啓蒙活動が必要と思われる。

わが国のいわゆる自主放送番組のように，ケーブル事業者が自ら企画制作に当るコミュニティチャンネルとは異なり，アクセスチャンネルの有効利用は米国の多くでは住民の意志次第になっている。その啓蒙に行政が立ち入る方が望ましいのか，それとも70年代初頭当時のようにケーブル事業者が自主制作を強制されるのが望ましいのか，あるいは現状のように住民の選択に任せるのか，この問題は各々の国家が掲げる政治理念とも関わる。

4.2.4 電話事業者・DBS 事業との競合

本調査の守備範囲を若干越えるが，現地でケーブル事業者と他の通信事業者の間で当時活発化しつつあった競争についてふれておきたい。

92年10月に成立した新ケーブル法（1992年法）は，消費者保護とあわせて，ビデオ伝送事業への競争原理の導入を促進するねらいをもつ。大手の電話事業者は既にケーブル事業参入の準備をしており，Palos Verdes でも有力な GTE 社の場合には，南カリフォルニアの Cerritos 市で88年9月から光ファイバーケーブルを用いるビデオ伝送実験を進めてきた。同市の約半数の世帯を対象にする大規模な半商用システムである。最高度のサービスメニューはまだ一部の加入者対象にすぎないが，通常のケーブル番組伝送や単純な双方向サービスは広く利用されている。この実験での実績をもとにして，GTE 社の南ロサンゼルス地区支店長は，Palos Verdes の市役所，学校区庁，図書館本部などに電話事業者によるビデオ伝送サービスのアピールに懸命であった。とくに，学校と図書館のケーブル担当職員は，GTE のサービスに関心が強く，Dimension Cable と双方向の教育番組を手掛ける一方で，GTE とも密接に会議をもっている様子であった。市役所についても，電話事業者のサービス展開を注視するといった状況である。

実は，GTE の支店長と Dimension Cable のジェネラルマネージャー氏は，いずれも同じ地元商業会議所やロータリークラブの中心的人物であり，非常に親しく相互に信頼しあう関係にある。両氏への個別インタビューには，「5年後，もう一度来てくれ。どちらが勝利するかはっきりしているから，是非見てほしい」とどちらも自信たっぷりだが，互いにエールを交換しあうよきライバルである。そんな中で，制度改革で地域電話事業者の功勢に悲観的になるどころか，ケーブル事業者は俄然アグレッシブになったようにも思えた。

電話事業者の参入にもかかわらず，ケーブル事業者が自信を失っていない理由は，一つはこれまでに築き上げた地元との友好関係という実績である。しかし中心になるのは，双方向サービス

への準備，つまりケーブルテレビ・システムを用いて電話事業者のサービスへと手を広げる技術的対応が，逆に電話事業者によるビデオ伝送サービスへの対応に比べて，一般にかなり進行しており，新たな投資額もケーブル事業者の方が相当に安価で済むという試算に基づいている。電話事業者にも自己が有利だとする根拠があるので，この種の論争にはこちらのより詳細な分析は欠かせない[40]。

しかしケーブル事業者は，今回の制度改革が「ケーブル番組の独占排除」を盛り込んでいる点には頭を悩ませている。いわゆる MSO と呼ばれる大手ケーブル事業者の場合，ケーブル番組の供給事業にも投資を続けてきた結果，通信衛星から降りてくるケーブルチャンネルの主要なものは，ケーブルオペレータ事業者自らが投資したものといってよい。にもかかわらず，新ケーブル法がケーブル番組の公平な分配を定めていることにより，電話事業者が自己のビデオ伝送サービスのためにケーブル番組の供給を希望すれば，番組供給事業者は排他的理由のみではそれを拒否できなくなるのである。システム・オペレータとプログラム・サプライヤ事業がケーブルテレビ事業の中で本来明確に二分されるはずであったのに，結果として今日では一体化していることが，独占排除の政策の登場で暗雲を投げかけたのである。

この問題は，電話事業者の市場参入だけでなく，直接衛星放送サービスの構想再燃によって，ケーブル事業者には沈鬱な状況をもたらしつつある。南カリフォルニアでサービス間近いのは，Hughes Communications 社による「DirecTv」サービスである。現計画では，94年中にも従来のケーブル番組で構成する 100 チャンネルもの DBS サービスを，自前の衛星を使って開始する予定である。「最大のライバルはヒューズ社の衛星サービスだ。彼らにもケーブル番組の提供を拒否できないのだから，新法の番組独占排除の規定は最悪だ。」Dimension Cable のマネージャー氏はこう嘆くのだった。

4.3 展望：わが国への示唆

新しい映像系情報システムとして語られるケーブルテレビであるが，当初は難視聴解消のためのテレビ放送補完施設として機能した。ついで，テレビ放送チャンネル数の地域的格差を是正する機能も果たすようになった。また，比較的狭小な地域で閉回路の有線施設として敷設されることから，地域情報メディアとしての役割にも注目は集まった。それとは逆に，70年代半ば頃からは，通信衛星や他の広域伝送系メディアと結合することによって，それらを介して伝送される非地域的情報の中継機能が，多チャンネルのテレビ放送システムとしてのケーブルの魅力を高めて

40）前掲の脚注32でも記したように，大手ＭＳＯを電話事業者が買収しようとする動きが活発化している。電話事業者がビデオ番組の伝送を行うには，新規に自社電話網を高度化するよりも，既存のケーブルテレビ・システムを買収し，電話網と接続する方がかなり安価に済むのであろうか。また，大手ＭＳＯを会社丸ごと手に入れることで，ＭＳＯが投資してきた衛星ケーブル番組サプライヤの事業にも参入できる見通しも，電話事業者によるＭＳＯ買収の動因だと考えられる。

きた。もちろん，各種の非放送系サービスも技術的に可能であるために，双方向の多機能映像システムとしても一貫して期待されてきたのである。

地域性と広域性，放送と非放送など，ケーブルに対する認識にはこのように多様で相矛盾するものも含んでいるようである。そこへ，テレビ所有世帯の60%以上にも達する米国での急速なケーブル普及を目の当たりにして，現実に演じられている役割を詳細に分析するよりも，ひたすらその普及率の大きさと産業的成長ばかりを強調し，いかにも米国ではケーブルの技術的多機能性が現実のものとなっているかのように短絡的な認識が一般化してしまった観がある。

このような姿勢は，「地域情報化」計画の基幹メディアとしてケーブルを位置付けるわが国の中央省庁および地方自治体の諸構想に著しい。そこでは，当該地域社会を舞台とする種々の地域情報を交換しあう，いわゆる自主制作番組の放送（自主放送＝local origination）が必須とされ，各種インタラクティブ・サービスも含められる。そして，「地方の情報発信機能」なるものも大テーマとなっており，衛星あるいは地上回線と各地のケーブルシステムを結んで，従来の中央から地方へ向う一方的な情報の流通を是正しようとしている。

ところが，自主放送を中心とする地域メディアとしてのケーブルへの期待は，実は1960年代後半から70年代前半にかけて，既にかなり活発な議論が交わされていたものの，当該ケーブル事業者の手でプロデュースする形態での自主放送が成功裡に進展した例は稀有といってよい。机上論は成り立つが，そのための条件を検討すればするほど，実現困難を示唆するデータで一杯になってしまうのである。一つには，肝心の地域住民側に地域情報に対する深刻な飢餓感が見られないこと，もう一つには，限られた地域社会の中だけで財政的に成り立たせる方策を見出し難いこと，このようなニーズと財政基盤に関する脆弱さが，地域情報メディアとしてのケーブル事業展開を困難にしてきたと考えられる[41]。

では，必要な技術と強力な財政的政策的支援さえあれば，ケーブルは地域メディアとして成立するのであろうか。また，地域社会への強い帰属意識が住民にあれば，地域情報へのニーズも涵養されるのであろうか。

今回の比較的突っ込んだ事例研究の結果を見るかぎり，ケーブルの地域的役割については，悲観的にならざるをえない。

くり返しになるが，1970年初頭の強い規制環境下にあった当時，自主放送やアクセスチャンネルを強要された米国のケーブル事業者は，深刻な財政的危機に陥る傾向にあった。この危機から脱することになったきっかけは，本稿冒頭でも記したように，FCC の急速な規制緩和と，それ

41）自主放送を中心としたケーブルテレビ事業の脆弱さについては，加入者調査のデータをもとにした次の拙稿で詳説している。「地域生活情報媒体＝ＣＡＴＶの課題」（『総合ジャーナリズム研究』No. 103，総合ジャーナリズム研究所，1983，pp. 120-128）．「ニュータウンテレビ局―洛西ケーブルビジョン」（井上宏・多喜『ニューメディア研究：情報新時代を考える』世界思想社，1984，pp. 91-123）．「ニューメディア論再考」（同前『ニューメディア研究』pp. 172-195）．

によって可能となった国内通信衛星を介した番組供給事業の登場である。75年以降，ケーブルは地域性よりも広域の多チャンネルテレビ放送システムとして成長していく。そしてこの傾向を一層後押ししたのは，1984年に FCC が出したケーブル通信政策法であり，ケーブル事業者にフランチャイズを与える自治体当局の規制権限を大幅に縮小したのである。これらによって，ケーブル事業者は金にならない地域貢献から開放され，堂々と多チャンネル放送システムとしてマーケティングを行い，儲かる事業へと急速に転換していった。

いわば多チャンネル放送の受け皿として，ケーブル施設事業はむしろ地域的回線供給事業として成長してきたのである。回線事業での収益増の結果，自治体とのフランチャイズ契約に今も含まれる各種アクセスチャンネル運用のための設備投資や人材調達も可能となってきた。しかし今もなお，ケーブル事業者は地域的な放送主体ではなく，せいぜい，地域チャンネルとハードウェアを地域社会に開放するだけで，市や住民の情報発信を技術的にサポートする役割に留まっているのである。

したがって，地域社会は自前の情報を流通させるための場と設備を結果としては得たことに相違ないが，本調査のデータを見るかぎり，地域社会の活性化につながる実績はまず見出せない。住民の地域社会への関心が非常に強く，帰属意識も高い地域を調査したにもかかわらず，ケーブルの地域利用に関する住民意識はきわめて低いものであった。ケーブル事業者側の地域貢献への積極的姿勢があってもこれなのである。

かといって，ケーブル事業者の手で地域的な番組を制作する日本型自主放送が望ましいとも思えない。一地域一事業者という枠の中で独占的に事業を行うケーブル施設者が，自らの視点のみで地域の言論あるいは情報供給を独占することの危険を思うとき，わが国の有線テレビジョン放送法の「チャンネル・リース」の義務化規定の重要性を再認識しなければならない。しかし，これもまた，わが国の実績を考えると，チャンネル・リースのもとで当該ケーブル事業者と肩を並べるほどの事業展開を行った自主放送事業者はごく少数である[42]。空中波テレビ放送事業者制作の番組と，質量ともに違和感ない水準の情報を発信できる事業者や住民が，個々の地域社会にそう多くはいないという現実を，直視すべきである。

単に多チャンネルのテレビ放送施設を設置して，経済に飢える地域社会に新たなビジネス機会を作るためだけがねらいなら，「地域情報化」などという簡単には達成できない謳い文句は掲げない方が賢明ではないか。地域的に限定されたテレビ放送事業の成立する条件は非常に厳しいのである。

衛星供給の各種専門番組を見る目的だけなら，近年の技術革新を考慮すれば，小型で安価なパラボラ・アンテナで戸別受信する方が，長期的には経済的であろう。ケーブル料金に対する今回

42）チャンネル・リースによる自主放送専門ケーブル局の事例は，前出の拙稿「地域生活情報媒体＝CATVの課題」と，同じく拙稿「ミニテレビ局―津山放送」（前出『ニューメディア研究』pp. 63-90）でその問題を考察した。

の住民の批判的な声は，それを象徴している。まして，衛星放送がケーブル普及に先行し，ビデオデッキの普及もそれに先駆けていたし，さらには通信衛星による直接受信前提の放送事業も始まったわが国において，ケーブル「テレビ放送事業」が米国並に進展する可能性さえ疑問なのである。現時点ではわずかに20％程度の普及に留まっているわが国のケーブルテレビ放送施設を，あらゆる地域にポピュラーなメディアに成長させるための投資が新規に調達できるぐらいなら，もっと効率的な資金運用によって，別種の多チャンネルテレビ放送の枠組みを構築できるのではないか。

ケーブルの多機能性にこそ将来がある，との反論もあろう。しかし，双方向性を十分に発揮して事業成功している例が，米国にどれほど存在しているというのか。受信者払いの800番電話サービスが浸透しているその国では，消費者はコストを気にせずに企業へのオーダーや問い合わせができる。一方的な映像提供しかできない在来型ケーブルテレビであっても，電話やパソコンを上り回線として安価に活用できれば，新規の双方向メディアは必ずしも今すぐ必要とは限らない。

テレビ放送の受信装置と通信系端末，そしてスタンドアローン系ＡＶメディアの一体化した今後のマルチメディア台頭を前提とするならば，広帯域，高速，双方向の高性能通信ネットワークの準備は急がねばならないだろう。この場合，既に60％の世帯に普及済みのケーブルテレビシステムを有する米国と，わずか20％の普及，しかもその大部分は今後のベースにもできないほど小規模で低性能のシステムであるわが国とを，同列に見立てて将来展望することはできない。その米国でさえ，電話事業者によるケーブル番組伝送や衛星放送がケーブルテレビシステムに代替する可能性も残っている。多チャンネルのテレビ放送システムとして地位を築いてきたケーブル事業が，魅力的な番組ソフトの独占的立場を失うとすれば，果たしてケーブル独自の存在理由を見い出せるだろうか。地域性がケーブルテレビの相対的優位を今後とも支えるとは，とても考えられないのである。

マスメディアによって支配される情報市場においていかなる少数の声をも反映させねばならないという，「言論・表現の自由」の視点からの地域メディア論，あるいはアクセス・メディア論議の重要性を否定しているわけではない。問題は，そのための機会確保の手段はケーブルテレビ以外にないのかということである。このようなマスメディアの機能補完に関する論議を大義名分にして，ひたすらテレビ放送市場の拡大とその経済的な波及効果を志向する風潮が，わが国の情報通信政策，さらには上位の国土開発計画に顕著なのではないか。100チャンネルのテレビ放送を見るためだけに結果するとすれば，今日の「高度情報化」「地域情報化」の大合唱は，あまりにも虚しく響くのである。

資料 1. 住民対象の予調備査票（面接調査）

Interviewer	**Cable and Community**: 09/19 & 20/1992	No.

Excuse me, I am a graduate student at Annenberg School for Communication, USC. We are conducting an academic survey about cable TV and communities. Would you willing to answer some questions? Thank you. And please tell me your idea whenever you want to inform us.

Q1 Do you *currently subscribe to cable* television?

1 Yes → Q2
2 No

SQ1-1 Did you cancel the subscription? 1 Yes 2 No → SQ1-3
SQ1-2 Why did you cancel it? → Q24

SQ1-3 Why don't you need cable TV services? → Q24

Q2 What kind of *expectations* did you have *before subscribing?*

Q3 To what extent your *expects satisfied* ?

1 Not at all 2 Somewhat satisfied 3 Very satisfied → Q4

SQ3-1 Why are you not satisfied?

Q4 How do you think about the *increasing of TV channels by cable?*

Q5 What *premium channels* do you currently subscribe to?

1 None. 2 Cinemax 3 The Movie Channel 4 HBO
5 Showtime 6 The Disney Channel 7 Other ( )

Q6 Have you ever *canceled any premium channels?*

1 Yes → SQ6-1 What channels? 1 Cinemax 2 The Movie Channel 3 HBO 4 Showtime 5 The Disney Channel 6 Other ( )
2 No

SQ6-2 *Why* did you cancel that channel?

Q7 How do you think *about premium channels* as a whole?

Q8 Do you know *Pay-Per-View* channels (Viewer's Choice I & II, ch.51 & 52)?
1 Yes 2 No ——→ Q11

Q9 Have you *ordered Viewer's Choice?*
1 Yes (frequency _____) 2 No

Q10 How do you think about such Pay-Per-View services?

Q11 *How often* do you watch Palos Verdes *municipal government programs* on ch.3 (councils, city events etc.)?
1 Often 2 Sometimes 3 Hardly ever 4 Never 5 Don't know ——→ Q13

Q12 How do you think about municipal government programs?

Q13 How often do you watch the *text scrolling city programs* on ch.3 ?
1 Often 2 Sometimes 3 Hardly ever 4 Never 5 Don't know ——→ Q15

Q14 How do you think about that kind of *text information services by cities?*

Q15 How often do you watch *Public Access programs* (ch.33)?
1 Often 2 Sometimes 3 Hardly ever 4 Never 5 Don't know ——→ Q17

Q16 How do you think about Public Access channel?

Q17 How often do you watch *California Channel* (ch.35)?
1 Often 2 Sometimes 3 Hardly ever 4 Never 5 Don't know ——→ Q19

Q18 How do you think about California Channel?

Q19 How often do you watch *Peninsula Showcase* on ch.12, local shopping, restaurant, realty etc., in photo & text commercial programs?
1 Often 2 Sometimes 3 Hardly ever 4 Never 5 Don't know ——→ Q21

Q20 How do you think about such programs?

Q21 Among those *locally originated programs*, please mention the programs whatever *you were satisfied with or serving a lot?* What kind of content? When?

Q22 Did you watch the program "*Telethon*", a non-profit live auction, by the Community Association of the Peninsula with Dimension Cable, last August 27, 19:00-midnight?

1 Yes 2 No 3 Don't know → Q24

Q23 How did you feel about such event and TV program?

Q24 Do you think that *Dimension Cable has been doing best* as possible for producing good programs in Palos Verdes communities?

1 Yes 2 No 3 Don't know

Q25 Do you think that Dimension Cable could be one of the most *important community media in the near future Palos Verdes ?*

1 Yes 2 No 3 Don't know

Q26 *For fully development of Dimension Cable,* what should be done by governments, cities, schools, residents, cable company itself and etc.?

Q27 When you want to find out *what is going on in Palos Verdes,* how do you normally get it?

1 Television 2 Radio 3 Newspaper
4 Magazine 5 Some person 6 Other ( )

Q28 Please mention the *titles of each media* which we can get a lot of local information in Palos Verdes, in general?

1 Television :_____
2 Radio :_____
3 Newspaper :_____
4 Magazine :_____
5 Other :_____

Q29 How do you think about *cable bills?*

subscription fee

1 Reasonable 2 Too expensive 3 Acceptable if more expensive 4 Neither

monthly basic-service fee

1 Reasonable 2 Too expensive 3 Acceptable if more expensive 4 Neither

monthly pay-channel fee

1 Reasonable 2 Too expensive 3 Acceptable if more expensive 4 Neither

each pay-per-view charge

1 Reasonable 2 Too expensive 3 Acceptable if more expensive 4 Neither

Q30 Do you have any *other opinion about cable bill?*

Q31 Would you please tell us your any *opinion about the relation between cable TV and community?*

Q32 How much do you *like Palos Verdes Peninsula communities,* using a scale from 1 to 5, where *1 is low and 5 is high?*

1 2 3 4 5

Q33 Would you please tell us your any *opinions about Palos Verdes communities?*

All the questions are finished. Thank you very much for your time.
At the end, I'd like to ask your background items for later analysis.

Q34 What is your *nearest age group* among the followings?

1 18-24 2 25-34 3 35-49 4 50-64 5 65 and over

Q35 How long have you *lived in Palos Verdes?*

1 Less than 1 year 2 1-2 years 3 3-4 years
4 5-9 years 5 10-19 years 6 over 20 years

Q36 What kind of *work* do you do?

1 Occupation ( )
2 Homemaker 3 Student 4 Retired
5 Unemployed, looking for a job 6 Other ( )

M	F
1	2

資料　2.　住民対象の本調査票（電話調査）

Palos Verdes Community and Cable TV

Hirotsugu Taki

Visiting Professor at Annenberg School for Communication
University of Southern California
Professor at Kansai University, Japan

No.	Phone
City	1 [ ] R.P.V.　2 [ ] P.V.E. 3 [ ] R.H.E.　4 [ ] R.H.
Gender	1 [ ] Female　2 [ ] Male
Ap.Time&Date	

Hello, I am a member of the academic research team directed by a Japanese university Professor, Taki. He is a visiting professor at Annenberg School for Communication, USC now. His purpose is to explore the effects of cable television upon local community in the U.S.

I am calling you today to ask about your opinion toward cable and community, especially in Palos Verdes.

Would you please answer some questions for about ten minutes now?

Please select your answer from the multiple choices, happy to do so. Thank you very much.

[At the beginning, I would like to ask your attitude toward televison broadcasts.]

Q1. Which of the following ***TV program categories***, do you always ***watch the most***?
Please select one category.　[Check one]

1 [ ] Education
2 [ ] Culture
3 [ ] News/Journalism
4 [ ] Entertainment----Movie, sports, drama, music

Q2. Of the same *TV program categories*, which do you ***watch least?***
Please select one category.　[Check one]

1 [ ] Education
2 [ ] Culture
3 [ ] News/Journalism
4 [ ] Entertainment----Movie, sports, drama, music

[On Q3 & Q4 : Interviewer "Are you a cable subscriber?" If so, read all 1~6. For cable non-subscribers, read only 1~3]

Q3. Among your receivable TV stations, which of the following ***station categories***, is your ***most favorite***? Please select one category.　[Check one]

1 [ ] Three Major TV networks (KCBS, KNBC, KABC)
2 [ ] Independent local stations (KTLA, KCAL, KTTV etc.)　*Cable non-subscribers*
3 [ ] Public Broadcasting Stations (KCLS, KCET, KOCE)
4 [ ] Basic cable channels (ESPN, CNN, C-SPAN, USA, MTV etc.)　*Cable subscribers*
5 [ ] Cable Palos Verdes community channels (ch.3, 12 & 33)
6 [ ] Cable Premium channels (HBO, Disney etc. or pay-per-view)

Q4. Of the same receivable TV station categories, which is your ***least favorite?***　[Check one]

1 [ ] Three Major TV networks (KCBS, KNBC, KABC)
2 [ ] Independent local stations (KTLA, KCAL, KTTV etc.)　*Cable non-subscribers*
3 [ ] Public Broadcasting Stations (KCLS, KCET, KOCE)
4 [ ] Basic cable channels (ESPN, CNN, C-SPAN, USA, MTV etc.)　*Cable subscribers*
5 [ ] Cable Palos Verdes community channels (ch.3, 12 & 33)
6 [ ] Cable Premium channels (HBO, Disney etc. or pay-per-view)

Q5. Which of the following ***sources of information***, do you *mainly use to know* "***what is happening in Palos Verdes?***" Please answer *Yes* for any of the sources. [Check any]

1 [ ] Television (including cable) 2 [ ] Radio 3 [ ] Newspaper
4 [ ] Magazine 5 [ ] Other people (relatives, friends, neighbors etc.) 6 [ ] Don't know

*[The following questions are about **cable TV**. Even if you don't subscribe currently, please answer as you preceive cable TV.]*

Q6. Concerning the following statements about ***the increase in the number of TV channels due to cable TV***, please answer *Yes / No / or Don't Know* for each statement

1 [Y N D] The increase of TV channels is good, in general
2 [Y N D] The quality of programs is more important than the increase of TV channels
3 [Y N D] There are too many poor programs on cable
4 [Y N D] Cable fee is a serious problem
5 [Y N D] Additional availability of TV channels does not affect my viewing
6 [Y N D] I need more diversity in programs
7 [Y N D] The present number of TV channels is enough for me

Q7. About ***premium channels on cable***, please answer *Yes/No/Don't know* on the following.
[*Premium Channel** is a channel which cable subscribers can watch **by paying an extra monthly fee**.]

1 [Y N D] There are too many reruns on premium channels
2 [Y N D] Can watch favorite movies anytime
3 [Y N D] Would like to watch other kinds of programs other than movies on premium channels
4 [Y N D] Some contents even before late night are inappropriate for children
5 [Y N D] Nice option to have
6 [Y N D] Waste of money
7 [Y N D] I or my family ordered Pay-Per-View programs at least once in a month, on the average

*[Cable companies prepare several channels for community. In Palos Verdes, Dimension Cable has government access, local business access, and public access channels. These are called **community TV**.]*

Q8. What do you think about ***community TV programs***?
Please answer *Yes / No /or Don't know* for each following statement.

1 [Y N D] It is useful to watch city council meetings on TV
2 [Y N D] Local government channel should exist regardless effectiveness
3 [Y N D] As a whole, there are many technical problems in community TV programs
4 [Y N D] Government announcement in scrolling text on ch.3 are important sources of local information
5 [Y N D] Not many citizens would watch community TV programs
6 [Y N D] Public Access channel on ch.33 plays a significant role in the Palos Verdes community
7 [Y N D] I have appeared or played a part on some community TV programs
8 [Y N D] I have watched some relatives or friends appear on community programs
9 [Y N D] If I have anything to tell the people of Palos Verdes, community TV channels are an effective method
10 [Y N D] There are many interesting programs on Public Access channel on ch.33
11 [Y N D] Classified advertisement in Showcase on ch.12 was convenient to get local commercial information

Q9. Which of the following, *do you think are* ***necessary for the proper development of cable TV services in Palos Verdes?*** Please answer *Yes / No / Don't know* for each statement.

1 [Y N D] To increase educational or cultural programs
2 [Y N D] To make more efforts to keep the present cable fee
3 [Y N D] To serve as public forum for Palos Verdes citizen to think about community matters
4 [Y N D] To help residents to produce public access programs
5 [Y N D] To introduce another cable company to compete with Dimension Cable
6 [Y N D] To increase the number of TV channels
7 [Y N D] Cable is only a business
8 [Y N D] To add city council programs of Rolling Hills & Palos Verdes Estates *(currently only R.P.V. & R.H.E.)*
9 [Y N D] Impossible for cable to be more effective than local papers like Peninsula News
10 [Y N D] Telephone companies should transmit cable programs through their telephone networks
11 [Y N D] Governments should make more efforts to regulate Dimension Cable
12 [Y N D] Okay to continue their present way
13 [Y N D] If any company begin direct broadcasting satellite TV services of the same number of channels and at almost equal cost, I would like to watch them with a dish antenna rather than cable.

Q10. By the way, do you ***currently subscribe to cable*** television, **Dimension Cable**? *Yes or No.*

1 [ ] Yes : ⟶ ***Go to SQ10-1 & 2***
2 [ ] No : ⟶ ***Skip to SQ10-3 & 4***

SQ10-1. ***To which type of the following cable services*** *do you subscribe?* [Check one]

1 [ ] Basic Cable Service
2 [ ] Dimension Service (Basic + CNBC, Family, Weather, MTV etc.)
3 [ ] Preferred Dimension (upper + CNN, ESPN, USA, Lifetime etc.)

SQ10-2. ***To which of the following premium channels*** *do you subscribe currently?* [Check any]

1 [ ] None
2 [ ] Cinemax
3 [ ] Movie Channel
4 [ ] HBO
5 [ ] Showtime
6 [ ] Disney Channel
7 [ ] Other
⟶ ***All 1~7 Skip to Q11***

SQ10-3. What are your ***reasons for non-subscription*** *to cable* currently? *Yes / No* for each.

1 [Y N] Cable line is not available
2 [Y N] Regular over-the air TV channels are sufficient
3 [Y N] Too expensive to subscribe and watch cable
4 [Y N] Usually don't watch TV frequently
5 [Y N] Equipped with satellite dish antenna
6 [Y N] Rent video tapes
7 [Y N] Other, if any ( )

SQ10-4. *Have you ever subscribed* to any cable TV? [Check one]

1 [ ] Yes, previously subscribed to *Dimension, but canceled* ⟶ ***Go to Q11***
2 [ ] Yes, previously subscribed to other cable, *but never subscribed to Dimension* ⟶ ***Skip to Q12***
3 [ ] Never subscribed ⟶ ***Skip to Q17***

Q11. How often do you watch the following ***Palos Verdes community TV programs***?
Select your nearest frequency for each program.
If you don't subscribe currently, please remind the times of subscribing.

1. Often	*2. Sometimes*	*3. Hardly ever*	*4. Never*	*X. Don't know*

1 [*1 2 3 4 X*] City council meetings on ch.3
2 [*1 2 3 4 X*] School and Library related meetings on ch.3
3 [*1 2 3 4 X*] Local music concerts at Norris Theater on ch.33
4 [*1 2 3 4 X*] Programs on history and nature of Palos Verdes Peninsula
5 [*1 2 3 4 X*] Local real estate information in previous Showcase, ch.12
6 [*1 2 3 4 X*] Local restaurant and shopping information in previous Showcase, ch.12
7 [*1 2 3 4 X*] Government announcement by city, school, library etc. *(scrolling text programs on ch.3)*
8 [*1 2 3 4 X*] A variety of community announcement on ch. 33
9 [*1 2 3 4 X*] Local sports programs *(high school basket ball games etc.)*
10 [*1 2 3 4 X*] As a whole, ch.3 (local Government Access channel)
11 [*1 2 3 4 X*] As a whole, ch.12 (previously Peninsula Showcase=classified local advertisement)
12 [*1 2 3 4 X*] As a whole, ch.33 (Public Access channel)

Q12. What *were your* ***main reasons for cable subscription?*** *Yes or No* for each statement.

1 [Y N] Because of the inability to receive TV signals without cable
2 [Y N] Contracts of house rental or leasing include cable subscription
3 [Y N] To get diversity of TV programs
4 [Y N] To watch cable programs rather than regular over-the air TV stations
5 [Y N] To watch more movies
6 [Y N] To watch more educational programs
7 [Y N] To watch more news
8 [Y N] To watch more financial programs
9 [Y N] To watch more sports
10 [Y N] To watch more Public Broadcasting Stations
11 [Y N] To watch more music programs
12 [Y N] To watch more children programs
13 [Y N] To watch Palos Verdes community programs
14 [Y N] To order pay-per-view programs

Q13. To what *extent are you* ***satisfied with cable subscription***, or were you satisfied *when you subscribed? Using a scale from 1 to 5*, where 1 is lowest, 5 is highest and 3 is neutral. [Check one]

1[ ] - - 2[ ] - 3[ ] -+ 4[ ] + 5[ ] + + → ***Skip to Q14***

SQ13-1. What are, or were the ***reasons of your dissatisfaction*** with cable subscription, if any? Answer *Yes or No* for each statement

1 [Y N] Contents of programs
2 [Y N] Existence of unnesessary TV stations
3 [Y N] Cable bill
4 [Y N] Insufficient consumer services by cable company
5 [Y N] Nature of TV broadcast itself
6 [Y N] Other, if any ( )

Q14. *[To confirm your previous answer]* Have you ever subscribed to ***any premium channel***?

1 [ ] Never : ——→ ***Skip to Q16***

2 [ ] Yes : ——→ ***Go to Q15***

Q15. Have you ever ***canceled any premium*** **channel, while you are a cable subscriber?**

1 [ ] Never : ——→ ***Skip to Q17***

2 [ ] Yes : **SQ.15-1** *Which premium channel did you cancel?* [Check any]

1 [ ] Cinemax 2 [ ] Movie Channel 3 [ ] HBO

4 [ ] Showtime 5 [ ] Disney Channel 7 [ ] Other

Q16. Which of the followings were your ***reasons for non-subscription or canceling*** *any* ***premium*** **channels?** Answer *Yes or No* for each statement.

1 [Y N] Too many reruns of the same program

2 [Y N] Contents of programs not interesting

3 [Y N] Too expensive

4 [Y N] Satisfied using rental video

5 [Y N] Absence of children or young in home

6 [Y N] Other, if any ( )

Q17. The last question, how well do you ***like Palos Verdes communities?***
Using a scale from 1 to 5, where 1 is lowest, 5 is highest, and 3 is neutral. [Select one]

1 [ ] - - 2 [ ] - 3 [ ] -+ 4 [ ] + 5 [ ] + +

[Finally, I would like to ask demographic information ***for statistical data analysis****.]*

F1. What is your nearest *age* group? Please mention ***Yes*** at your right range.

1 [ ] 18-24 2 [ ] 25-34 3 [ ] 35-49 4 [ ] 50-64 5 [ ] 65 and over

F2. How long have you *lived in Palos Verdes*? Please say ***Yes*** at the right range.

1 [ ] Less than 1 year 2 [ ] 1-2years 3 [ ] 3-4 years

4 [ ] 5-9 years 5 [ ] 10-19 years 6 [ ] over 20 years

F3. What is your occupation? Please select your nearest one. [Check one]

1 [ ] Homemaker 2 [ ] Employed & Self-employed 3 [ ] Retired

4 [ ] Unemployed 5 [ ] Student 6 [ ] Other

F4. Gender *(Don't ask this question if it's obvious)* : 1 [ ] Female 2 [ ] Male

[Thank you very much for your time.]